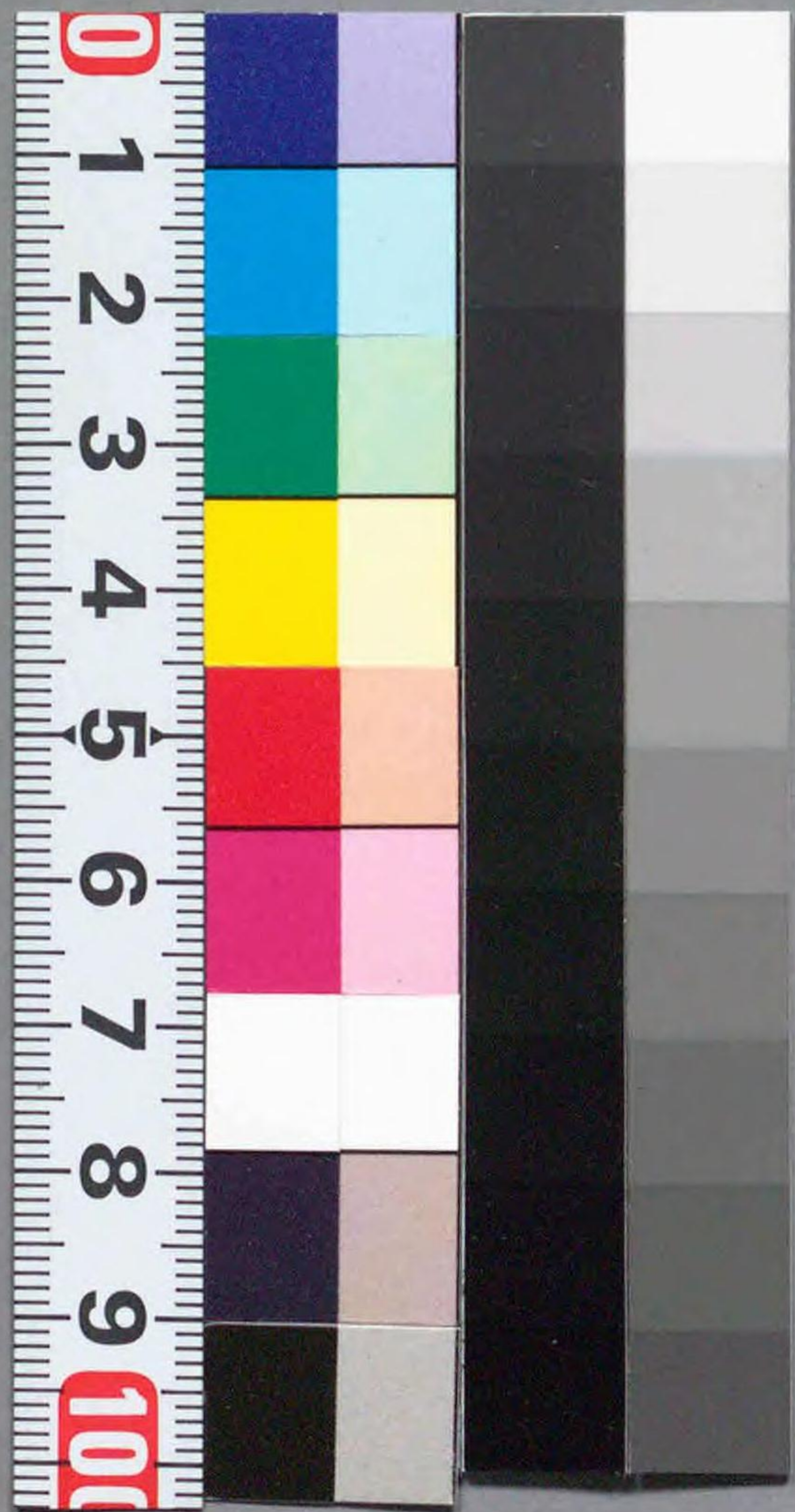


CZ-431-044



\*1200901599234\*

禁電子式複写



14.12.26

14.7  
279

二十四年七月現行

遠洋漁業獎勵法及關係法規

農林省水產局

147-279

C2  
431  
044

目次

遠洋漁業獎勵法及關係法規

目次



遠洋漁業獎勵法	一
遠洋漁業獎勵法施行細則	七
遠洋漁船檢查規程	三
漁船檢查規程	六
木船檢查規程	三

大正  
14.8.28  
內交

一  
七  
三  
六  
三

# 遠洋漁業獎勵法及關係法規

## ○遠洋漁業獎勵法

明治三十八年三月一日公布法律第四十號  
 明治四十二年四月十三日公布法律第三十七號  
 明治四十三年三月二十五日公布法律第二十號  
 大正三年三月十一日公布法律第六號  
 大正七年三月二十二日公布法律第十一號  
 大正十二年三月二十九日公布法律第三十一號  
 大正十四年三月三十日公布法律第二十六號

第一條 政府ハ遠洋漁業ヲ獎勵スル爲毎年豫算ヲ以テ定ムル所ノ金額ヲ支出ス

第二條 本法ニ依リ獎勵金ヲ受クルコトヲ得ヘキ者ハ帝國臣民又ハ帝國臣民ノミヲ社員又ハ株主トシテ帝國法律ニ從ヒ設立シタル法人ニ限ル

第三條 主務大臣ハ遠洋漁船検査規程ニ定ムル構造ニ適合シタル日本船舶ヲ以テ遠洋ニ於ケル漁獵業又ハ漁獲物處理運搬業ニ從事スル者ニ對シ業務ノ種類、場所、期間若ハ方法又ハ漁獲物ノ處理若ハ販路ニ付條件ヲ附シ漁業獎勵金ヲ下付スルコトヲ得

第四條 削除

遠洋漁業獎勵法

第五條 主務大臣ハ遠洋漁船検査規程ニ定ムル構造ニ適合シタル日本船舶ヲ新造シ又ハ日本船舶ニ新造ノ機關、副漁具ヲ据附ケ若ハ新造ノ保藏設備、無線電信裝置、無線電話裝置ヲ施設シタル船舶所有者ニ對シ左ノ區別ニ從ヒ漁船獎勵金ヲ下付スルコトヲ得但シ計畫總噸數六十噸以上ノ船舶ニ在リテハ第一號乃至第三號ノ規定ニ拘ラス其ノ船體、機關及屬具ノ評價額ノ十分ノ二以內ノ漁船獎勵金ヲ下付スルコトヲ得

- 一 船體總噸數每一噸
  - 鋼製 六拾圓以內
  - 木製 四拾五圓以內
- 二 蒸汽機關實馬力每一馬力 貳拾貳圓以內
- 三 發動機關純馬力每一馬力 四拾圓以內
- 四 保藏設備、無線電信裝置又ハ無線電話裝置 評價額ノ十分ノ三以內
- 五 副 漁 具 評價額ノ十分ノ三以內

主務大臣ハ漁船ノ改良ニ關シ適當ト認メタル設計ニ依リ日本船舶ヲ新造シ又ハ改造シタル船舶所有者ニ對シ其ノ船舶新造費又ハ改造費ノ三分ノ一以內ノ漁船獎勵金ヲ下付スルコトヲ得

前項ノ船舶新造費又ハ改造費ハ保藏設備、無線電信裝置、無線電話裝置

及副漁具ノ新造費又ハ改造費ヲ包含ス

同一ノ船舶ニ付第一項及第二項ノ漁船獎勵金ヲ併セ下付スルコトヲ得ス

第六條 遠洋漁船検査規程ハ主務大臣之ヲ定ム

第七條 漁業獎勵金ヲ受クヘキ者第三條ノ條件ヲ履行セサルトキ又ハ每業務期間ニ於テ其ノ業務ニ從事スルコト業務期間ノ四分ノ三ニ滿タサルトキハ主務大臣ニ於テ正當ノ事由ニ因リ已ムヲ得サルモノト認ムル場合ニ限リ獎勵金ノ全部又ハ一部ヲ下付スルコトヲ得

第八條 漁船獎勵金ヲ受ケタル船舶ノ所有者及其ノ承繼人ハ其ノ獎勵金ヲ受ケタル日ヨリ五箇年間之ヲ外國人ニ讓渡、貸付又ハ擔保ニ供スルコトヲ得ス但シ既ニ受ケタル漁船獎勵金ヲ償還シタルトキ、天災其ノ他拒スヘカラサル強制ニ因リ航行ニ堪ヘサルニ至リタルトキ又ハ主務大臣ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第九條 漁船獎勵金ヲ受ケタル船舶ノ所有者及其ノ承繼人ハ其ノ獎勵金ヲ受ケタル日ヨリ五箇年間主務大臣ニ於テ正當ノ事由ニ因リ已ムヲ得サルモノト認ムル場合ヲ除クノ外毎年業務期間ノ四分ノ三以上遠洋ニ於ケル

漁獵又ハ漁獲物處理運搬ノ爲之ヲ使用シ又ハ使用セシムルコトヲ要ス

第十條 主務大臣ハ漁業獎勵金ヲ受クル者又ハ漁船獎勵金ヲ受ケタル船舶ノ所有者及其ノ承繼人ヲシテ遠洋漁業ニ關スル調査ヲ爲サシメ及漁業獎勵金ヲ受クル者ノ使用スル船舶又ハ漁船獎勵金ヲ受ケタル船舶ニ遠洋漁業練習生ヲ乗組マシムルコトヲ得

第十一條 遠洋漁業ノ指導監督又ハ遠洋漁業練習生ノ養成ノ爲必要ナル費用ハ第一條ニ依ル豫算定額中ヨリ之ヲ支出スルコトヲ得

主務大臣ハ必要ト認メタル場合ニ於テ第一條ニ依ル豫算定額中ヨリ公共團體其ノ他ノ營利ヲ目的トセサル法人ニ對シ遠洋漁船船員ノ養成又ハ遠洋漁業者若ハ海外出漁者ノ利益増進ノ爲必要ナル費用ノ全部又ハ一部ヲ下付スルコトヲ得

第十二條 主務大臣ハ漁業獎勵金ヲ受クル者又ハ漁船獎勵金ヲ受ケタル者及其ノ承繼人ノ業務ヲ監督シ之カ爲必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第十三條 主務大臣ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違反シ又

ハ主務大臣ノ命令ニ從ハサル者ニ對シ獎勵金ノ下付ヲ廢止シ又ハ其ノ既ニ受ケタル金額ノ償還ヲ命スルコトヲ得

第十四條 詐僞ノ所爲ヲ以テ獎勵金ヲ受ケタル者又ハ第八條ノ規定ニ違反シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯サムトシテ未タ遂ケサル者ハ刑法未遂犯罪ノ例ニ依リ處斷ス

第十五條 主務大臣ハ詐僞ノ所爲ヲ以テ獎勵金ヲ受ケタル者ニ對シテハ其ノ因テ得タル金額、第八條又ハ第九條ノ規定ニ違反シタル者ニ對シテハ其ノ既ニ受ケタル金額ヲ償還セシムヘシ

第十六條 第十三條及前條ノ償還金ハ國稅徵收法ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得但シ先取特權ノ順位ハ國稅ニ次クモノトス

第十七條 當業者カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ當業者ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十八條 當業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出サルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス  
第十九條 前二條ノ場合ニ於テハ懲役、禁錮又ハ拘留ノ刑ニ處スルコトヲ得ス

第二十條 明治三十三年法律第五十二號ノ規定ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

附則

第二十一條 本法ハ大正二十二年三月三十一日迄效力ヲ有ス

(備考)

- 一、傍線ヲ施セル部分ハ大正十四年三月三十日法律第二十六號ヲ以テ改正セラレタル主要部分ヲ示ス
- 一、改正法ハ大正十四年六月十三日勅令第二百二十五號ニ依リ同年六月十五日ヨリ之ヲ施行ス
- 一、第六條第一項ノ削除ニ伴ヒ大正三年勅令第三十九號(遠洋漁業獎勵法ニ依リ獎勵金下付ノ漁獵業及副漁具ノ種類並船舶ノ噸數制限ニ關スル件)ハ大正十四年六月十三日勅令第二百二十六號ニ依リ同年六月十五日ヨリ之ヲ廢止ス

○遠洋漁業獎勵法施行細則

大正七年四月一日公布農商務省令第九號(全部改正)  
大正十二年八月十三日公布農商務省令第十九號改正  
大正十四年六月二十五日公布農林省令第十九號改正

第一條 漁業獎勵金ヲ受ケムトスル者ハ様式第一號ニ依ル願書ニ左ノ書類

ヲ添ヘ之ヲ農林大臣ニ差出スヘシ但シ願書及添附書類ハ各二通ヲ要ス

一 様式第二號ニ依ル業務目論見書

二 業務ノ種類、場所、期間若ハ方法又ハ漁獲物ノ處理若ハ販路ニ付特異ナル點ヲ説明セル書類

三 總噸數二十噸以上ノ船舶ニ付テハ船舶國籍證書寫及船舶檢查證書寫又ハ漁船檢查證書寫、總噸數二十噸未滿ノ船舶ニ付テハ船鑑札寫又ハ漁船檢查證書寫

出願人カ法人ナルトキハ前項ニ掲クル書類ノ外定款及社員名簿又ハ株主名簿、組合ナルトキハ契約書及組合員ノ名簿ヲ願書ニ添附スヘシ但シ其ノ法人若ハ組合ハ帝國臣民ノミヲ以テ組織スルモノナルコトヲ定款又ハ契約書ニ於テ明示セル場合又ハ之ニ關スル地方長官ノ證明アル場合ニ於



テハ社員名簿又ハ組合員名簿ヲ添附スルコトヲ要セス

第二條 漁船獎勵金ヲ受ケムトスル者ハ様式第三號ニ依ル願書ニ左ノ書類

ヲ添ヘ之ヲ農林大臣ニ差出スヘシ但シ願書及添附書類ハ各二通ヲ要ス

一 様式第二號ニ依ル業務目論見書

二 様式第四號ニ依ル船舶件名書

三 圖面

四 仕様書

前條第二項ノ規定ハ前項ノ願書ニ關シ之ヲ準用ス

第一項第三號ノ圖面ハ左ノ各號ニ依リ之ヲ作成シ各圖面ニハ寸法ヲ附記スヘシ但シ汽機圖ニハ汽機縱橫平面、各截面及冷汽器附屬唧筒ノ截面ヲ、汽罐圖ニハ縱橫截面、前面及背面ヲ記入スヘシ

一 船舶ヲ新造スル場合ニ在リテハ船體線圖、船體中央橫截面圖、船體中心線縱截面圖、船體各甲板平面圖、艙内平面圖、船體中心線縱截面並各甲板及艙内平面ノ鋼材配置圖、裝帆圖、汽機圖、汽罐圖又ハ發動機圖、保藏ニ使用スル機械圖、保藏設備圖、處理用機械裝置圖、

無線電信原動機圖又ハ無線電話原動機圖、無線電信裝置圖又ハ無線電話裝置圖

二 船舶ニ新造ノ機關ヲ据附クル場合ニ在リテハ機關室ノ橫截面圖、船體各甲板平面圖、艙内平面圖、裝帆圖、汽機圖、汽罐圖又ハ發動機圖

三 船舶ニ保藏設備ヲ施設スル場合ニ在リテハ保藏室及保藏ニ使用スル機械室ノ橫截面圖及縱截面圖、船體各甲板平面圖、艙内平面圖、保藏ニ使用スル機械圖、保藏設備圖

四 船舶ニ新造ノ副漁具ヲ据附クル場合ニ在リテハ副漁具圖、副漁具ノ運轉ニ主トシテ使用スル機械圖、副漁具ノ運轉ニ要スル裝置圖

五 船舶ニ無線電信裝置又ハ無線電話裝置ヲ施設スル場合ニ在リテハ無線電信室圖又ハ無線電話室圖、無線電信原動機圖又ハ無線電話原動機圖、無線電信裝置圖又ハ無線電話裝置圖

六 船舶ヲ改造スル場合ニ在リテハ改造部ノ改造前後ニ於ケル對照圖  
計畫總噸數六十噸以上ノ船舶ヲ新造シ又ハ總噸數六十噸以上ノ船舶ヲ改

造スル場合ニ於テ農林大臣必要ト認メタルトキハ左ノ書類ノ添附ヲ命スルコトアルヘシ

一 様式第四號ノ二ニ依ル船舶重量及重心ノ位置計算表

二 排水量及横「メタセンター」曲線圖

三 乾舷高及横「メタセンター」高計算表

遠洋漁業獎勵法第五條第一項第一號乃至第三號ニ該當スル場合ヲ除クノ外漁船獎勵金ヲ受ケムトスル者ハ前各項ニ依ル書類ノ外船體、機關、保藏設備、無線電信裝置、無線電話裝置、副漁具及屬具ノ新造又ハ改造ニ要スル豫定經費明細書ヲ差出スヘシ

遠洋漁業獎勵法第五條第一項本文ニ依ル出願ハ住所所在地ノ管轄地方長官ヲ經由スヘシ

第二條ノ二 計畫總噸數六十噸以上ノ船舶ヲ新造スル場合ニ於テ漁船獎勵金及漁業獎勵金ヲ併セ受ケムトスル者ハ様式第三號ノ二ニ依ル願書ニ左ノ書類ヲ添ヘ之ヲ農林大臣ニ差出スヘシ但シ願書及添附書類ハ各二通ヲ要ス

一 第二條第一項第二號乃至第四號ノ書類

二 第二條第五項ノ書類

三 漁業獎勵金ヲ受ケムトスル年度ニ於ケル第一條第一號及第二號ノ書類農林大臣必要ト認メタルトハ前項ノ添附書類ノ外第二條第四項第一號乃至第三號ノ書類ノ添附ヲ命スルコトアルヘシ

第一條第二項ノ規定ハ第一項ノ願書ニ關シ之ヲ準用ス

第二條ノ三 遠洋漁業獎勵法第五條ノ獎勵金ヲ受クルコトヲ得ヘキ保藏設備ハ冷藏設備、殺菌設備又ハ防熱設備ニ限ル

第二條ノ四 遠洋漁業獎勵法第五條第二項ノ改造ニ對スル獎勵金ハ其ノ改造費中船體ノ改造費カ其船體ノ時價ノ四分ノ一以上ナルトキ又ハ機關ノ改造費カ其ノ機關ノ時價ノ四分ノ一以上ナルトキニ限リ其ノ改造費ニ對シ之ヲ下付ス

第三條 農林大臣第一條ノ願書ヲ受理シ之ヲ適當ト認メタルトキハ漁業獎勵金下付ノ許可指令書ヲ出願人ニ交付スヘシ但シ業務設備又ハ船舶ヲ検査スル必要アリト認ムルトキハ主務大臣ハ其ノ指定シタル検査員又ハ管

海官廳ヲシテ遠洋漁船検査規程ニ依リ検査ヲ執行セシムルコトアルヘシ

第四條 農林大臣第二條ノ願書ヲ受理シ之ヲ適當ト認メタルトキハ漁船獎勵金下付ノ許可指令書ヲ出願人ニ交付スヘシ

第四條ノ二 農林大臣第二條ノ二ノ願書ヲ受理シ之ヲ適當ト認メタルトキハ漁船獎勵金及漁業獎勵金下付ノ許可指令書ヲ出願人ニ交付スヘシ

第五條 農林大臣前三條ニ依リ獎勵金下付ノ許可指令書ヲ出願人ニ交付シタルトキハ其ノ旨ヲ出願人ノ住所所在地ノ管轄地方長官ニ通知スヘシ

第六條 第四條又ハ第四條ノ二ノ許可指令書ヲ受ケタル者ハ農林大臣ノ指定シタル時ニ於テ船舶ノ新造若ハ改造、機關、處理用機械若ハ副漁具ノ据附又ハ保藏設備ノ施設ニ關シ遠洋漁船検査規程ニ依リ管海官廳又ハ主務大臣ノ指定シタル検査員ノ検査ヲ受クヘシ

農林大臣必要ト認メタルトキハ第二條又ハ第二條ノ二ノ出願人ニ對シ獎勵金下付ノ許可指令書ヲ受ケタル者其ノ船舶ノ新造

第七條 第四條又ハ第四條ノ二ノ許可指令書ヲ受ケタル者其ノ船舶ノ新造

若ハ改造、機關、處理用機械若ハ副漁具ノ据附又ハ保藏設備、無線電信裝置若ハ無線電話裝置ノ施設ニ關スル仕様ヲ變更セムトスル場合ニ於テハ農林大臣ノ許可ヲ受クヘシ但シ検査員カ其ノ變更ニ因リ船體、機關、處理用機械、副漁具、保藏設備、無線電信裝置又ハ無線電話裝置ノ要部ニ著シキ相違ヲ生セサルモノト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ場合ニ於テ農林大臣ハ變更ノ程度ニ應シ其ノ許可シタル漁船獎勵金ノ率ヲ變更スルコトアルヘシ

第八條 第六條ニ依ル検査ヲ終リタルトキハ管海官廳又ハ主務大臣ハ様式第五號ニ依ル竣工證明書ヲ出願人ニ交付スヘシ

第九條 農林大臣必要アリト認メタルトキハ漁業獎勵金下付ノ許可ヲ受ケタル者ニ對シ其ノ許可期間内、漁船獎勵金ヲ受ケタル船舶ノ所有者又ハ其ノ承繼人ニ對シ漁船獎勵金ヲ受ケタル日ヨリ五年間何時ニテモ其ノ船舶ノ業務設備検査ヲ執行スルコトアルヘシ

農林大臣ニ於テ業務設備ヲ不完全ナリト認メタルトキハ其ノ補充ヲ爲スヘキ旨ヲ業務主ニ命スルコトアルヘシ

第十條 漁業獎勵金若ハ漁船獎勵金下付ノ許可ヲ受ケタル者ハ其ノ許可期間内ニ、漁船獎勵金ヲ受ケタル船舶ノ所有者又ハ其ノ承繼人ハ漁船獎勵金ヲ受ケタル日ヨリ五年内ニ左ノ各號ノ一ニ該當スル事實アリタルトキハ其ノ事實アリタル日又ハ其ノ事實ヲ知リタル日ヨリ三十日内ニ其ノ旨農林大臣ニ届出ツヘシ

- 一 船舶カ日本船舶ノ資格ヲ喪失シタルトキ
  - 二 船舶カ滅失、沈没シ若ハ行衛不明トナリタルトキ又ハ解撤セラレタルトキ
  - 三 法人若ハ組合カ解散又ハ破産シタルトキ
  - 四 船舶検査證書又ハ船鑑札ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキ
  - 五 前各號ノ外獎勵金ヲ受クヘキ條件ヲ缺キタルトキ
- 法人若ハ組合カ解散又ハ破産シタル場合ニハ其ノ清算人又ハ破産管財人ヨリ前項ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第一項ノ規定ニ依リ届出ヲ爲スヘキ者カ死亡シタルトキハ其ノ相續人ヨリ、行衛不明トナリタルトキハ其ノ戸主又ハ家族ヨリ届出ノ手續ヲ爲ス

ヘシ

第十一條 漁業獎勵金又ハ漁船獎勵金下付ノ許可ヲ受ケタル者ニシテ其ノ許可期間内ニ、漁船獎勵金ヲ受ケタル船舶ノ所有者又ハ其ノ承繼人ニシテ漁船獎勵金ヲ受ケタル日ヨリ五年内ニ氏名若ハ名稱又ハ住所ヲ變更シタルトキ又ハ死亡シ若ハ行衛不明トナリタルトキハ其ノ事實アリタル日又ハ其ノ事實ヲ知リタル日ヨリ二週間内ニ其ノ旨ヲ農林大臣ニ届出ツヘシ

前項死亡ノ場合ニ於テハ其ノ相續人ヨリ行衛不明ノ場合ニ於テハ其ノ戸主又ハ家族ヨリ其ノ手續ヲ爲スヘシ

第十二條 漁船獎勵金ヲ受ケタル船舶ノ所有者又ハ其ノ承繼人ニシテ漁船獎勵金ヲ受ケタル日ヨリ五年内ニ其ノ船舶ヲ讓渡シタルトキハ遲滞ナク様式第六號ニ依ル届書ヲ農林大臣ニ差出スヘシ

第十三條 漁業獎勵金下付ノ許可ヲ受ケタル者ハ其ノ許可期間内ニ漁船獎勵金ヲ受ケタル船舶ノ所有者又ハ其ノ承繼人ノ漁船獎勵金ヲ受ケタル日ヨリ五年内ニ船體、機關、處理用機械、副漁具、保藏設備、無線電信裝

置又ハ無線電話装置ノ現状ニ重大ナル變更ヲ爲サムトスルトキハ様式第十號ニ依ル願書ヲ差出シ農林大臣ノ認可ヲ受クヘシ機關、處理用機械若ハ副漁具ヲ除去若ハ据替ヘムトスルトキ又ハ保藏設備、無線電信装置若ハ無線電話装置ヲ除去若ハ施設替ヘセムトスルトキ亦同シ

第十四條 漁船獎勵金ヲ受ケタル船舶ノ所有者又ハ其承繼人ニシテ漁船獎勵金ヲ受ケタル日ヨリ五年内ニ業務目論見書ニ記載シタル業務ノ種類、期間又ハ場所ヲ變更セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ農林大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ其ノ船舶ヲ使用シテ其ノ變更セムトスル業務目論見書ニ從テ爲ス漁獵業又ハ漁獲物ノ處理運搬業ニ付漁業獎勵金下付ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十五條 漁船獎勵金ヲ受ケタル船舶ノ所有者又ハ其ノ承繼人ニシテ遠洋漁業獎勵法第九條ノ規定ニ依リ船舶ヲ使用シ若ハ使用セシムルコト能ハサルトキ又ハ漁業獎勵金下付ノ許可ヲ受ケタル者ニシテ其ノ許可期間内ニ於テ業務ヲ廢止若ハ休止セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ農林大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十六條 漁業獎勵金下付ノ許可ヲ受ケタル者毎業務期間ニ於ケル業務ヲ開始シ若ハ終了シタルトキハ業務主又ハ船長ヨリ遲滞ナク其ノ旨ヲ農林大臣ニ届出ツヘシ

第十七條 業務期間内ニ於テ避難ノ爲又ハ薪水、糧食ノ積入、漁獲物ノ陸揚若ハ船舶、漁具ノ修繕ニ要シタル日數及農林大臣ノ必要ト認メタル航行碇泊ノ日數ハ就業日數ト看做ス

第十八條 漁業獎勵金下付ノ許可ヲ受ケタル者業務期間ヲ終リタルトキハ様式第七號ニ依ル請求書ニ業務日誌ヲ添ヘ之ヲ農林大臣ニ差出シ獎勵金ノ下付ヲ請求スルコトヲ得

第十九條 漁船獎勵金下付ノ許可ヲ受ケタル者獎勵金ノ下付ヲ請求セムトスルトキハ竣工證明書ヲ添ヘ様式第八號又ハ様式第九號ニ依ル請求書ヲ農林大臣ニ差出スヘシ但シ無線電信装置又ハ無線電信装置ノ施設又ハ施設替ニ對スル獎勵金ノ下付ヲ請求セムトスルトキハ私設無線電信規則第九條ニ依ル檢定證書又ハ假檢定證書ノ寫ヲ添附スヘシ

第二十條 漁業獎勵金又ハ漁船獎勵金下付ノ許可ニ因リテ生シタル效力ハ

事業ト共ニスル場合ニ限り農林大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ他人ニ讓渡スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル認可申請書ニハ漁業獎勵金又ハ漁船獎勵金下付ノ許可ヲ受ケタル者及讓受人連署シ且其ノ事由ヲ證スルニ足ル書類ヲ添附スヘシ

前項ノ認可申請書ハ住所所在地ノ管轄地方長官ヲ經由スヘシ

第二十一條 遠洋漁業獎勵法第七條ノ場合ニ於テ獎勵金ノ下付ヲ請求セムトスルモノハ漁業獎勵金請求書ニ其ノ事由ヲ證スルニ足ル書類ヲ添附スヘシ

第二十二條 遠洋漁業獎勵法又ハ本則ノ規定ニ違反シ起訴セラレタル者ニ對シテハ其ノ裁判ノ確定スル迄獎勵金ノ下付ヲ中止スルコトヲ得

第二十三條 漁業獎勵金下付ノ許可ヲ受ケタル者ハ每業務期間ヲ終リタル日ヨリ二月内ニ業務收支計算書ヲ農林大臣ニ差出スヘシ但シ事業年度ヲ定メタルモノニ在リテハ其ノ年度ノ終了後二月内ニ之ヲ差出スコトヲ得

第二十四條 漁船獎勵金ヲ受ケタル船舶ノ所有者又ハ其ノ承繼人ハ漁船獎

勵金ヲ受ケタル日ヨリ五年間其ノ船舶ヲ使用シ若ハ使用セシメタル業務

ニ關シ毎年一回様式第十一號ニ依ル業務報告書ヲ農林大臣ニ差出スヘシ

遠洋漁業獎勵法第五條第一項本文ニ依リテ獎勵金ヲ受ケタル場合ニ於テハ前項ノ書類ハ住所所在地ノ管轄地方長官ヲ經由スヘシ

第二十五條 漁業獎勵金下付ノ許可ヲ受ケタル者ニ在リテハ其ノ許可期間

内、漁船獎勵金ヲ受ケタル船舶ノ所有者又ハ其ノ承繼人ニ在リテハ漁船

獎勵金ヲ受ケタル日ヨリ五年間ハ帳簿ヲ備ヘ其ノ業務ニ關スル收支ヲ記

載シ帳簿閉鎖ノ時ヨリ二年間之ヲ保存スヘシ

農林大臣ハ何時ニテモ當該官吏ヲシテ前項ノ帳簿ヲ検査セシムルコトヲ得

第二十六條 漁船獎勵金ヲ受ケタル船舶ノ所有者又ハ其ノ承繼人ニシテ漁

船獎勵金ヲ受ケタル日ヨリ五年内ニ於テ天災其ノ他抗拒スヘカラサル強

制ニ因リ航行ニ堪ヘサル場合ニ其ノ船舶ヲ外國人ニ讓渡、貸付又ハ擔保

ニ供シタルトキハ所有者又ハ船長ヨリ其ノ事由ヲ具シ農林大臣ニ届出ツヘシ

第二十七條 遠洋漁業獎勵法第十條ニ依リ遠洋漁業練習生ヲ乘組マシメタル船舶ノ船長ハ練習生ヲシテ航海及漁獵ニ關スル技術ヲ練習セシメ其ノ品行及技能ニ注意シ每業務期間ニ於ケル業務ヲ終リタル後遲滯ナク其ノ狀況ヲ農林大臣ニ報告スヘシ

第二十八條 遠洋漁業獎勵法第十條ニ依リ遠洋漁業ニ關スル調査ヲ命セラレタル者ハ指定ノ期間内ニ其ノ報告ヲ爲スヘシ

第二十九條 第十條乃至第十四條、第二十三條乃至第二十六條ノ規定ニ違反シ、第十五條ニ依ル認可申請ノ手續ヲ爲サス若ハ帳簿ノ檢査ヲ拒ミタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

本則ハ大正七年法律第十一號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
本則施行前獎勵金下付ノ指令ヲ受ケタル者ニ付テハ仍従前ノ例ニ依ル

(様式)

第一號

漁業獎勵金下付願

今船遠洋漁業獎勵法ヲ遵守シ所有(何縣何郡何村何番地何某所有)ノ汽(帆)船何丸ヲ以テ漁獵業(漁獲物處理運搬業)ニ從事致候ニ付漁業獎勵金下付許可相成度成規書類ヲ添へ此段相願候也  
年 月 日

族籍住所

氏 名 (印)

農林大臣

殿

第二號

業務目論見書

- 一 船種、船名、總噸數、實(純)馬力、進水年月日及獎勵金ノ交付ヲ受ケタル船舶ニ付テハ其ノ年月日
- 二 業務ノ種類(漁獵業ニ在リテハ漁獵ノ種類)
- 三 漁獲物ノ種類(處理運搬業ニ在リテハ處理運搬ノ目的物ノ種類及處理運搬ノ方法)
- 四 漁獵具、保藏設備、處理用權械及副漁具ノ構造、使用並其ノ他ノ必要ナル設備ニ關スル説明
- 五 業務期間(漁獵ノ種類二種以上ナルトキハ各其ノ業務期間)
- 六 事業年度ヲ定メタル者ニ在リテハ事業年度
- 七 業務ノ場所(漁獵業ニ在リテハ各漁獵別ノ業務場所、處理運搬業ニ在リテハ航路ヲ定メタルトキハ其ノ航路)

遠洋漁業獎勵法施行細則

- 八 漁獲物ノ販路
- 九 船員職務別及員數（漁業獎勵金下付出願ノ場合ニハ海技免狀ヲ有スル船員ノ免狀ノ種類、番號及氏名ヲ記シ又船員中外國人アルトキハ其ノ員數）
- 十 業務豫算
  - 一 起業費
  - 二 收支
  - 三 損益

第三號

漁船獎勵金下付願

今般遠洋漁業獎勵法ヲ遵守シ遠洋漁船新造（改造又ハ新造機關若ハ副漁具ヲ据付又ハ保藏設備、無線電信裝置若ハ無線電話裝置ヲ施設）候ニ付漁船獎勵金下付許可相成度成規書類ヲ添へ此段相願候也

年月日

族籍住所

氏名 ①

農林大臣

殿

第三號ノ二

漁船獎勵金及漁業獎勵金下付願

今般遠洋漁業獎勵法ヲ遵守シ遠洋漁船ヲ新造シ漁獵業（漁獲物處理運搬業）ニ從事致候ニ付漁船獎勵金及漁船竣工後一（二又ハ三）年間（各年）ノ業務ニ對スル漁業獎勵金下付許可相成度成規書類ヲ添へ此段相願候也

年月日

族籍住所

氏名 ①

農林大臣

殿

第四號

船舶件名書

- 一 船種及船名
  - 二 船體ノ長、幅、深
  - 三 外板及船骨材料
  - 四 總噸數（計畫又ハ現在）
  - 五 速力（計畫又ハ現在）
  - 六 機關ノ種類及數
  - 七 實馬力又ハ純馬力（計畫又ハ現在）
- 遠洋漁業獎勵法施行細則



- 八 保藏設備ノ種類但シ冷藏機械ニ在リテハ其ノ方式及冷却力製氷量(計畫又ハ現在)
  - 九 處理用機械ノ種類及數
  - 十 無線電信裝置、無線電話裝置ノ發電機ノ負何容量(計畫又ハ現在)
  - 十一 副漁具ノ種類及數
  - 十二 業務設備
  - 十三 豫定起工年月日
  - 十四 豫定竣工年月日
  - 十五 船體、機關、無線電信裝置、無線電話裝置、保藏設備及副漁具ノ製造者又ハ改造者ノ住所、氏名又ハ名稱
  - 十六 製造、改造、据付又ハ施設ノ場所
- 備考 改造ノ場合ニ於テハ現在及新計畫ニ區別シテ記載スヘシ

第四號ノ二

船舶重量及重心ノ位置計算表

項	目	重量(噸)	基線	
			上	ヨリ
一、船體部				
イ、船殼				

重心ノ高(呎) 力率(呎噸)

龍骨						
船首材						
船尾骨材						
外板						
肋骨						
梁						
鋼甲板、木甲板						
支水隔壁						
固定壓艙物 其ノ他物						
口、 艙裝及屬具						
揚錨機						
揚荷機						
副漁具						

無線電信又 無線電話	錨、錨鎖及 其他	其ノ他	ハ、タンク類(空)	水タンク	油タンク	其ノ他	ニ、保藏設備	冷蔵機	配管装置	防熱装置	其ノ他	二、機 關部

イ、主 機關	汽 罐	車 軸	螺旋推進器	其ノ他	ロ、補助機關	補助機關	補助汽罐	發電機	蓄電池	其ノ他	空 荷 狀 態 計

滿載狀態計	水	油	石炭	氷	漁獲物	漁具	綱索類	乘組員及其荷物	食糧品	其ノ他

第五號

竣工證明書

一 獎勵金下付許可ノ目的物

- 二 船種、船名及資格
  - 三 總噸數
  - 四 機關ノ種類及數
  - 五 實馬力又ハ純馬力
  - 六 保藏設備ノ種類
  - 七 處理用機械ノ種類及數
  - 八 無線電信裝置、無線電話裝置ノ數
  - 九 副漁具種類及數
  - 十 竣工年月日
  - 十一 製造者又ハ改造者ノ住所、氏名又ハ名稱
  - 十二 所有者ノ住所、氏名又ハ名稱
- 右検査ヲ遂ケ遠洋漁船検査規程ニ合格セルコトヲ證ス  
年 月 日

農林省(若ハ管海官廳名) 印

第六號

船舶所有權移轉屆

- 一 本船番號(船舶検査證書又ハ船鑑札記載ノ番號)
- 遠洋漁業獎勵法施行細則

二 船種、船名

右ハ年月日遠洋漁業獎勵法ニ依リ漁船獎勵金ヲ受ケタル船舶ニシテ今般私共兩人ノ間ニ於テ所  
有權ヲ授受候ニ付テハ同法ノ規定遵守可仕此段及御届候也

年月日

族籍住所

(賣主)

族籍住所

(買主)

氏名 (印)

氏名 (印)

農林大臣

殿

第七號

漁業獎勵金請求書

一金 圓 漁業獎勵金

何年何月何日附農林省指令水第

號ヲ以テ漁業獎勵金下付ノ許可ヲ受ケ漁獵業(漁獲物

處理運搬業)ニ從事致候處今般業務ヲ終了候ニ付前記獎勵金御下付相成度關係書類相添へ此段

及請求候也

年月日

住所

氏名 (印)

農林大臣

殿

第八號

漁船獎勵金請求書 (遠洋漁業獎勵法第五條第一項本文ニ依ルモノ)

一金 圓 漁船獎勵金

汽(帆)船 丸

内

金 圓 船體總噸數何噸ニ對スル分

金 圓 機關實(純)馬力何馬力ニ對スル分

金 圓 保藏設備ニ對スル分

金 圓 無線電信裝置、無線電話裝置ニ對スル分

金 圓 副漁具何々何臺ニ對スル分

何年何月何日附農林省指令水第

號ヲ以テ漁船獎勵金下付ノ許可ヲ受ケ遠洋漁船建造

(機關若ハ副漁具ヲ据付又ハ保藏設備、無線電信裝置若ハ無線電話裝置ヲ施設)中ノ處今般竣工

致候ニ付前記獎勵金御下付相成度關係書類相添へ此段及請求候也

年月日

住所

第九號

農林大臣

殿

氏

名

印

漁船獎勵金請求書(遠洋漁業獎勵法第五條第一項但書及第五條第二項ニ依ルモノ)

一金 圓

何年何月何日附農林省指令水第

號ヲ以テ漁船獎勵金下付ノ許可ヲ受ケ遠業漁船建造

(改造)中ノ處今般竣工致候ニ付前記獎勵金御下付相成度關係書類相添ヘ此段及請求候也

年月日

住所

氏

名

印

農林大臣

殿

第十號

船體(機關、處理用機械、副漁具、保藏設)變更(除去、据替)認可願

汽(帆)船何丸船體(機關、處理用機械、副漁具、保藏設)

右ノ何年何月何日漁船獎勵金(漁業獎勵金下付ノ許可)ヲ受ケタルモノニ有之候處今般左記ノ

事由ニ依リ該船體(機關、處理用機械、副漁具、保藏設)變更(除去、据替)致候ニ付御認可相成

度此段相願候也

年月日

住所

氏

名

印

農林大臣

殿

記

何々

第十一號

業務報告書

年度

一 船名

二 漁船獎勵金交付年月日

三 業務ノ種類

四 漁獵具ノ種類及數

五 從業ノ期間及場所

六 出漁日數

七 從業者數

遠洋漁業獎勵法施行細則

八 業務ノ概要  
九 收支及損益

十 無線電信裝置、無線電話裝置ノ使用度數及其ノ效果  
十一 副漁具、保藏設備ノ效果  
右遠洋漁業獎勵法施行細則第二十四條ニ依リ及報告候也

年 月 日

住 所

氏

名 印

農林大臣

殿

(參考)收支及損益明細表

(第十一號様式ノ業務報告書ニ添付スヘキモノ)

漁業ノ種類	漁業
漁具ノ種類及數	
漁期	自 月 日至 月 日
出漁日數	日

遠洋漁業獎勵法施行細則

從業員數	場	名(内機關部)	名
(一)收入	總計金	圓	錢
内 譯	金	額	單價
	圓	數	量
雜收入			
(二)支出	總計金	圓	錢
内 譯	金	額	單價
	圓	數	量
(イ)給食料及配當			

職員給料	船長月額 機關長月額	名分
水漁夫給料		
職員食費	一名月(日)額	
水漁夫食費	一名月(日)額	
從業員配當	漁獲高ノ	歩
(ロ) 機關部消耗品費		
石炭		
輕油(重)	石斗	
マシン油	石斗	
ウエス其他		
(ハ) 甲板部消耗品費		
餌料		
氷		

鹽		
燈油其他		
(ニ) 諸修繕補充費		
船體修繕費		
機關修繕費		
漁具修繕補充費		
(ホ) 諸償却費		
船價償却費	(機關共)	建造費 割
漁具償却費	(副漁具共)	仕入費 割
(ヘ) 雜費		
漁獲物販賣手数料	賣場	歩
保險料		
諸公課		

備考	其		(三) 損		差
	引	出	入	益	
備考 食費ニハ米、味噌、薪炭其他炊爨用品費全部ヲ計上スヘシ	引	出	入	益	(益(損))

(備考)

一、傍線ヲ施セル部分ハ大正十四年六月二十五日省令第十九號ヲ以テ改正セラレタル主要部分ヲ示ス

一、改正施行細則ハ大正十四年六月二十五日省令第十九號附則ニ依リ同日ヨリ之ヲ施行ス

### ○遠洋漁船検査規程

大正七年四月一日公布農商務省令第十號(全部改正)  
 大正十二年八月十三日公布農商務省令第二十號改正  
 大正十四年六月二十五日公布農林省令第二十號改正

### 第一章 總 則

第一條 遠洋漁業獎勵法ニ依ル遠洋漁船ノ船體、機關、保藏設備又ハ副漁具及業務設備ノ検査ハ本規程ノ定ムル所ニ依ル

第二條 汽船並總噸數二十噸以上ノ帆船ノ船體、發動機及蒸汽機關並船體及蒸汽機關ノ屬具ハ本規程ニ別段ノ定アルモノヲ除クノ外漁船検査規程ニ適合スルモノナルコトヲ要ス

前項ノ汽船又ハ帆船ハ重構船又ハ重甲板船ニシテ漁船検査規程ニ定メタル第二級漁船以上ノ資格ヲ有スルモノナルコトヲ要ス

第三條 遠洋漁船ノ上甲板ニハ海圖室、操舵室、無線電信室、無線電話室、賄室、燈具室、副漁具室及便所ヲ除クノ外甲板室ヲ設クルコトヲ得ス但シ農林大臣ノ認可ヲ受ケタルモノニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

第四條 遠洋漁船ノ舷側ニハ載貨門ヲ設クルコトヲ得ス

第五條 機關ヲ有スル船舶ニシテ船體ノ大サニ對シ帆面積ノ大ナル帆裝ヲ有スルモノ又ハ機關ヲ有セサル船舶ニシテ帆裝ヲ有スルモノハ長ハ深ノ

十倍、幅ノ四・五倍ヲ、幅ハ深ノ一・八倍ヲ超ユルコトヲ得ス但シ打瀬網漁業ニ使用スル機關ヲ有セサルモノニ在リテハ長ハ深ノ十三倍迄ト爲スコ



トヲ得

機關ヲ有スル船舶ニシテ船體ノ大サニ對シ帆面積ノ小ナル帆裝ヲ有スルモノ又ハ帆裝ヲ有セサルモノハ長ハ深ノ十一倍、幅ノ六倍ヲ、幅ハ深ノ二・八倍ヲ超ユルコトヲ得ス但シ專ラ漁獲物ノ運搬ニ從事スルモノニ在リテハ長ハ深ノ十三倍迄、幅ノ七倍迄ト爲スコトヲ得

長、幅、深ヲ相乘シタル數三千未満ノ船舶ハ前二項ノ規定ニ拘ラス長ハ深ノ十三倍迄、幅ノ五倍迄ト爲スコトヲ得

検査官吏ニ於テ船體ト壓艙物、帆面積又ハ乾舷高トノ關係ニ依リ復原力充分ナリト認め且特別ノ補強構造ニ依リ強力充分ナリト認めタルモノハ前三項ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

第六條 遠洋漁船ニ搭載スル壓艙物カ移動シ易キ物質ナルトキハ隔板其ノ他ノ防移裝置ヲ爲スヘシ

第七條 第一級漁船以外ノモノニシテ長、幅、深ヲ相乘シタル數四千未満ノモノニ在リテハ甲板上ヨリ舵ヲ引揚ケ得ル構造ト爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ舵架ノ構造ヲ特ニ堅牢ト爲スヘシ

第八條 機關ヲ有スル船舶ニシテ船體ノ大サニ對シ帆面積ノ小ナル帆裝ヲ有スルモノ及長、幅、深ヲ相乘シタル數四千未満ノ船舶竝打瀬網漁業ニ使用スル船舶ニ在リテハ適當ノ構造ヲ爲ストキハ起倒シ得ヘキ檣ヲ用ウルコトヲ得

第九條 操舵裝置ハ船ヲ最強速力ニ於テ航走セシメ舵ヲ最大角度ニ取リテ之ヲ試験シ故障ナキモノナルコトヲ要ス

第十條 長、幅、深ヲ相乘シタル數一万二千未満ノ遠洋漁船ニ在リテハ海錨一箇以上ヲ備ヘ且「ケッチ」、「ヨール」及「スクーナ」以外ノモノナルトキハ船尾ニ隨時ニ小檣ヲ立テ三角帆ヲ使用シ得ルノ裝置ヲ爲スヘシ

第十一條 遠洋漁船ノ舷側ニ棚ヲ設クルモノニ在リテハ充分ニ排水シ得ルノ構造ト爲スヘシ

第十二條 遠洋漁船ノ外板ハ肋骨ヲ建テタル後之ヲ張ルヘシ但シ主トシテ蒸曲肋骨ヲ使用スル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第十二條ノ三 機關ヲ有スル遠洋漁船ニ在リテハ機力ニ依ル唧筒ヲ設ケ機  
關室及魚艙ニ其ノ吸水管ヲ導入スヘシ

第十二條ノ四 鋼製遠洋漁船ノ船首材、船尾材、龍骨、外板、甲板、肋骨、  
梁、舵及舵柄ハ材料試験ニ合格シタルモノ又ハ検査官吏ノ適當ト認メタ  
ル證明書アルモノナルコトヲ要ス

前項ノ試験ハ造船規程第一編第二章ノ規定ニ依ル但シ鑄鋼製ノモノニ在  
リテハ抗張試験及屈曲試験ハ検査官吏必要ナシト認メタルトキ之ヲ省略  
スルコトヲ得

第十二條ノ五 鋼製遠洋漁船ハ船首材ノ前面ヲ距ルコト船ノ長ノ二十分ノ  
一ヨリ少カラサル箇所及少クモ機關室ノ前後各一箇所ニ支水隔壁ヲ設ク  
ヘシ但シ長、幅、深ヲ相乘シタル數六千未満ノ船舶ニシテ機關室ヲ船尾ニ  
設クルモノノ機關室後部ノ支水隔壁ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十二條ノ六 鋼製遠洋漁船ノ彎曲部角型ナルモノニ在リテハ肘板ヲ以テ  
其ノ部ノ肋骨ヲ接續セシムヘシ

第十二條ノ七 活魚艙ヲ有スル鋼製遠洋漁船ニシテ其ノ部ニ縱通隔壁ヲ有  
スルモノニ在リテハ其ノ部ノ肋骨ノ寸法及外板ノ厚ヲ増ストキハ肋板ヲ  
省略スルコトヲ得

第十二條ノ八 木製遠洋漁船ノ上甲板ノ甲板室ハ其ノ周圍四箇所以上ニ於  
テ甲板室上部ニ通スル鐵釘ヲ以テ甲板梁ニ固著スヘシ

第十二條ノ九 燃油槽ヲ甲板上ニ設クルトキハ特ニ堅固ニ之ヲ取附クヘシ  
第十三條 漁獲物處理運搬船ニハ處理設備若ハ活魚設備又ハ保藏設備ヲ爲  
スヘシ

第十四條 船體又ハ機關ノ構造寸法カ本規程ニ該當セサル場合ニ於テモ主  
務大臣ニ於テ本規程ノ定ムル所ト同一ノ效力ヲ有スト認メタルモノハ本  
規程ニ適合スルモノト看做ス

第十四條ノ二 船ノ長、幅、深ハ呎ヲ單位トシ呎以下ハ木船ニ在リテハ一  
位、鋼船ニ在リテハ二位ニ止メ其ノ以下ハ四捨五入スルモノトス

第二章 長、幅、深ヲ相乘シタル數四千未満ノ  
木製帆船ノ船體

第十五條 本章ニ於テ第一數ト稱スルハ船ノ深ト幅ノ二分ノ一トヲ加ヘタ

ル數ヲ謂フ

第二數ト稱スルハ船ノ長、幅、深ヲ相乗シタル數ヲ謂フ

第十六條 前條ニ於テ船ノ長ト稱スルハ甲板梁上ニ於テ船首材ノ後面ヨリ單螺旋推進器ヲ有スル船舶ナルトキハ舵柱ノ前面迄、其ノ他ノ船舶ナルトキハ船尾材ノ前面迄、舵柱又ハ船尾材ヲ有セサルモノニ在リテハ船尾板ノ前面迄ノ水平距離ヲ謂フ但シ上部彎曲ノ船首材ヲ備フル船舶ニ在リテハ該材下部ノ後面ニ沿ヒテ眞直ニ延長シタル線ト甲板梁ノ上面線トノ交叉點ヨリ之ヲ測ルモノトス

幅ト稱スルハ船體ノ最廣部ニ於ケル肋骨ノ外面ヨリ外面迄ノ距離ヲ謂フ深ト稱スルハ船體ノ中央ニ於テ龍骨又ハ敷ノ上面ヨリ甲板梁ノ上面迄ノ距離ヲ謂フ

第十七條 本章ニ於テ規定シタル寸法及員數ハ最小ノ限度ヲ示シ距離ハ最大ノ限度ヲ示シタルモノトス

第十八條 石油發動機ヲ備フル漁船ノ機關室ハ鐵板若ハ亞鉛板ヲ張り又ハ其ノ他ノ方法ニ依リ燃燒豫防ノ裝置ヲ爲スヘシ

第十九條 吸入瓦斯發動機ヲ据附クルモノニ在リテハ機關室ニ徑八吋以上ノ通風器ヲ一箇以上設クヘシ但シ検査員ニ於テ之ト同等以上ノ效力アリト認ムル設備ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十條 甲板ニ設クル機關室口、艙口、載炭口、出入口及其ノ他ノ諸口ノ縁材ハ其ノ高甲板上面ヨリ六吋以上ト爲シ敲釘ヲ以テ梁及縦梁ニ固著スヘシ但シ直接波浪ヲ受ケサル場所ニ於ケルモノ若ハ特殊ノ水密裝置ヲ備フルモノ又ハ第二數二千以下ノ漁船ニ在リテハ縁材ノ高ヲ減シ又ハ甲板上面ト平直ト爲スコトヲ得

第二十一條 甲板ニ設クル機關室口ニハ甲板上面ヨリ一呎半以上ノ高ヲ有スル圍壁ヲ取附クヘシ

第二十二條 艙口ニハ堅牢ナル蓋板ヲ備ヘ且之ヲ堅固ニ密閉シ得ヘキ様覆布及適當ノ締具ヲ備フヘシ但シ検査員カ覆布ト同一ノ效力ヲ有スト認ムルモノヲ備フルトキハ覆布ハ之ヲ備ヘサルコトヲ得

甲板上ノ機關室口、載炭口、出入口及其ノ他ノ諸口ニハ覆蓋又ハ蓋板及覆布並適當ノ締具ヲ備フルカ其ノ他水密トナルヘキ裝置ヲ爲スヘシ但シ

検査員ニ於テ水密ト爲ス必要ナシト認ムル甲板口ハ此ノ限ニ在ラス  
前二項ノ諸口ニシテ被蓋ヲ備フルモノニ在リテハ各側ノ縁材ニ徑八分ノ  
三吋以上ノ金屬製環一箇以上ヲ敲著又ハ螺著シ綱ニテ締附クルノ装置ヲ  
爲スヘシ

第二十三條 曲材ハ總テ木目ノ貫通シタルモノナルコトヲ要ス

第二十四條 船體ヲ構成スル木材ハ有害ナル節瘤其ノ他ノ缺點ヲ有セス且  
充分乾燥シタルモノナルコトヲ要ス

第二十五條 遠洋漁船ニハ船ノ全長ヲ通シテ水密構造ノ甲板ヲ設クヘシ但  
シ漁業上差支アルトキハ機關室以外ノ部分ニ於テ船ノ全長ノ三分ノ一未  
滿ハ甲板ヲ設ケサルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ支水隔壁ヲ設クヘシ

第二十六條 肋骨ノ截面及心距ハ第一號表ニ依ルヘシ但シ外板ノ厚ヲ増ス  
トキハ其ノ割合ニ應シ截面ヲ減シ又ハ心距ヲ増スコトヲ得

第二十七條 前條但書ノ場合ニ於テ肋骨ノ心距ハ機關室ニ於テハ十七吋、  
其ノ他ノ箇所ニ於テハ二十吋ヲ超ユルコトヲ得ス但シ機關室以外ノ場所  
ニ於ケル距離五呎以内ノ隔壁間ニ設クル肋骨ニ在リテハ尙其ノ心距ヲ適

當ニ増加スルコトヲ得

第二十八條 單材肋骨ノ嵌接又ハ累接ノ長ハ用材ノ深ノ三倍以上ト爲シ三  
箇以上ノ敲釘ヲ以テ之ヲ緊著スヘシ

單材肋骨ノ衝接ニハ肋材ト同截面ヲ有スル添材ヲ附シ衝接ノ兩側ニ二箇  
以上ノ敲釘ヲ以テ之ヲ緊著スヘシ

第二十九條 肋骨ハ龍骨及内龍骨ヲ貫通シ敲釘ヲ以テ緊著スヘシ但シ敷ヲ  
用ウルモノニ在リテハ六吋以内ノ心距ニ於テ敲釘ト打込釘トヲ交互ニ用  
井肋骨ト敷トヲ緊著スヘシ

第三十條 肋骨ハ蒸曲材ヲ用ウルトキハ適當ニ截面ヲ減スルコトヲ得

第三十一條 活魚艙ニ縦通隔壁ヲ設クルトキハ其ノ部分ノ肋骨ノ數ヲ減ス  
ルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ活魚艙兩端ノ肋骨ノ截面ヲ増加シ縦通隔壁  
下部ニ縦通材ヲ取附ケ且其ノ部分ノ外板ノ厚ヲ増スカ其ノ他適當ナル補  
強構造ヲ爲スヘシ

活魚艙内ノ肋骨ハ縦通隔壁ニテ止ムルコトヲ得但シ肋骨ヲ止メタル所ニ  
於テ二十平方吋以上ノ截面ヲ有スル縦通材ヲ附シ艙ノ前後二肋骨以上延

長セシムヘシ

前項ノ場合ニ於テハ隔壁部ニ於ケル肋骨ハ之ヲ左右ニ通セシムヘシ

第三十二條 梁ノ截面ハ第一號表ニ依ルヘシ

第三十三條 梁ノ心距ハ四呎ヲ超エサル範圍ニ於テ第一號表ニ依ル肋骨心距ノ三倍以内ト爲ス事ヲ得但シ心距四呎以内ニ梁ヲ設クル事能ハサル時ハ肋骨ノ截面又ハ外板ノ厚ヲ増スカ其ノ他適當ナル補強構造ヲ爲スヘシ

第三十四條 梁ハ成ルヘク肋骨ノ上ニ設ケ梁曲材ヲ以テ肋骨ニ緊著スヘシ但シ梁受材ヲ設クルトキハ適當ニ梁曲材ノ數ヲ減スルコトヲ得

前項ノ梁受材ノ截面ハ十二平方呎以上ト爲スヘシ

第三十五條 甲板ノ厚ハ第二號表ニ依ルヘシ

第三十六條 甲板ノ幅ハ十呎ヲ超ユヘカラス但シ適當ナル補強構造ヲ爲ストキハ此ノ限ニ在ラス

第三十七條 甲板ハ幅六呎以下ナルトキハ一箇、六呎ヲ超ユルトキハ二箇以上ノ打込釘ヲ以テ梁毎ニ固着スヘシ

第三十八條 甲板ノ側縁ニハ梁壓材ヲ設クヘシ但シ其ノ厚ハ甲板ノ厚ヨリ

二分ノ一吋以上大ナルコトヲ要ス

第三十九條 梁壓材ハ敲釘ヲ以テ舷牆柱毎ニ緊著シ打込釘ヲ以テ梁及梁受材ニ固著シ且肋骨ノ間ニ於テ外板ニ固著スヘシ

第四十條 梁壓材ノ嵌接ノ長ハ用材ノ幅ノ二倍以上ト爲シ三箇以上ノ釘ヲ以テ固著スヘシ

第四十一條 外板ノ厚ハ第二號表ニ依ルヘシ但シ肋骨ノ心距ヲ減スルトキハ適當ニ其ノ厚ヲ減スルコトヲ得

第四十二條 外板ノ厚ハ第二號表ニ依ル厚ヨリ百分ノ五十以上増加スルトコトヲ得ス

第四十三條 外板ノ幅ハ十二吋ヲ超ユルコトヲ得ス

第四十四條 外板ハ其ノ幅八吋半未満ナルトキハ肋骨毎ニ二箇、幅八吋半以上十吋半未満ナルトキハ肋骨毎ニ三箇、幅十吋半以上ナルトキハ肋骨毎ニ四箇ノ釘ヲ以テ之ヲ固著スヘシ但シ外板ノ幅十吋半以上ナル場合ニ於テモ單材ヲ以テ肋骨ヲ構成スルモノ又ハ肋骨毎ニ木釘ヲ用ウルモノニ在リテハ肋骨毎ニ三箇ヲ用ウルコトヲ得

外板ノ縦縁ニ縫釘ヲ使用スルトキハ前項ノ釘ノ數ヲ肋骨毎ニ一箇宛減スルコトヲ得

前二項ノ固著釘ハ肋骨二本置ニ一箇以上ノ敲釘又ハ木釘ヲ用ウルコトヲ要ス

第四十五條 厚一時四分ノ一ヲ超エサル外板ハ其ノ縦縁ヲ累接ト爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ敲釘ヲ以テ之ヲ緊著スヘシ

第四十六條 彎曲部ノ角形ナルモノニ在リテハ船ノ首尾ヲ通シテ其ノ部ニ外部彎曲部縱通材ヲ設ケ其ノ截面ヲ十平方吋以上ト爲スヘシ但シ首尾兩端ニ於テハ適當ニ其ノ截面ヲ減スルコトヲ得

第四十七條 外部彎曲部縱通材ハ肋骨毎ニ敲釘ヲ以テ肋骨ニ緊著スヘシ  
第四十八條 外部彎曲部縱通材ノ嵌接ノ長ハ用材ノ幅ノ三倍以上ト爲シ三箇以上ノ敲釘ヲ以テ之ヲ緊著スヘシ

第四十九條 「スクーナー」「ケツチ」「ヨール」「カッター」「スループ」又ハ「ラツガー」ノ檣ノ徑ハ長四呎ニ付一時ト爲スヘシ

第四十九條ノ二 總噸數二十噸未滿ノ帆船ニハ左ノ屬具ヲ備フヘシ

漁業燈 一揃

信號旗NC 二旗

羅針盤 一箇

海水寒暖計 一箇

兩色燈 一箇

霧中號角又ハ喇叭 一箇

救命具 一箇 (總噸數十噸未滿ノ漁船ハ之ヲ備ヘサルモ妨ナシ)

時計 一箇 (同上)

手用測程具 一組 (同上)

測深具 一組 (同上)

晴雨計 一箇 (同上)

第三章 發動機

第五十條 發動機ノ純馬力ノ測定ニ付テハ發動機ヲ船舶ニ据附クル前検査員ノ適當ト認メタル純馬力測定器ヲ用井計畫回轉數又ハ之ニ近キ回轉數

及適當ナル荷重ニ付二回以上毎回三十分間以上繼續シテ運轉シ毎回一分間ノ平均回轉數ヲ測定スヘシ

前項ニ依リ測定シタル毎回ノ平均回轉數ノ平均數ヲ以テ其ノ發動機ノ純馬力ヲ算出スヘシ

第五十一條 發動機ハ前條ニ依リ純馬力ヲ測定シタルトキノ回轉數ニ一割ヲ増加セル回轉數及前條ト同一ノ荷重ニ付三十分間以上之ヲ運轉シ支障ナキモノナルコトヲ要ス

第五十二條 農林大臣已ムコトヲ得サル事由ニ因リ第五十條ニ依ル純馬力測定ヲ爲スコト能ハサルモノト認メタルトキハ發動機ヲ船舶ニ据附ケタル後検査員ノ適當ト認ムル状態ニ於テ三十分間以上船舶ヲ航走セシメ二回以上各汽笛ヨリ取りタル示壓圖ニ依リ算出シタル實馬力ノ平均數ニ適當ナル係數ヲ乘シタルモノヲ以テ發動機ノ純馬力トス  
發動機ハ前項ノ検査終リタル後前項ニ依リ純馬力ヲ測定シタルトキノ回轉數ニ一割ヲ増加セル回轉數ニ於テ三十分間以上船舶ヲ航走セシメ支障ナキモノナルコトヲ要ス

第五十二條ノ二 前三條ノ規定ニ依リ發動機ノ純馬力ノ測定ヲ爲シタル後検査員ノ適當ト認メタル状態ニ於テ三十分間以上最高速度ヲ以テ船舶ヲ航走セシメ其ノ發動機ノ回轉數ヲ測定スヘシ

前項ノ回轉數ハ計畫回轉數ヨリ一割ヲ下ラサルコトヲ要ス

第五十三條 曲拐軸ハ鍛合シタルモノヲ用ウルコトヲ得ス

第五十四條 諸軸及瓣鐸ハ検査官吏ノ適當ト認ムル強力ヲ有スルモノヲ用ウヘシ

第五十四條ノ二 氣筒 吸錨及架構其ノ他ノモノノ重要ナル部分ニハ鑄巢ノ類ト雖存セサルコトヲ要ス

第五十四條ノ三 發動機カ一氣筒ナルトキハ氣筒ノ直徑ハ十二吋二分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス

第五十四條ノ四 螺旋軸及中間軸ノ接手ニハ錨接手ヲ用ウヘシ

第五十五條 進力受臺ニハ球軸受ヲ用ウルコトヲ得ス

第五十六條 發動機ノ屬具ハ第三號表ニ據リ之ヲ備フヘシ

第四章 保藏設備、副漁具及業務設備

第五十七條 保藏設備ハ検査員ノ適當ト認ムルモノナルコトヲ要ス但シ防熱装置ハ左ノ各號ニ依ルヘシ

イ 隔壁及兩側ニ在リテハ毛紙ヲ挟ミタル板ヲ取附ケ適當ノ間隙ヲ隔テ同様ノ板ヲ取付ケ其ノ間隙ニ木炭「コルク」「シリケートコットン」其ノ他適當ナル防熱物ヲ填充スヘシ但シ木船ニ在リテハ其ノ兩側ニ於ケル装置ハ検査員ニ於テ必要ナシト認ムル場合ニ限り之ヲ省略スルコトヲ得

ロ 甲板下ニ在リテハ梁ノ下面ニ毛紙ヲ挟ミタル板ヲ取付ケ梁間ニ前號ノ防熱物ヲ填充スヘシ

ハ 艙口ノ蓋板ハ二重ニ之ヲ設クヘシ

第五十八條 副漁具ハ船舶ニ据附ケタル後検査員ノ適當ト認ムル方法ヲ以テ運轉シ故障ナキモノナルコトヲ要ス

第五十八條ノ二 遠洋漁船ニシテ特種ノ業務設備ヲ有スルモノハ検査官吏ノ適當ト認メタル方法ニ依リ其ノ設備ヲ試験シ故障ナキモノナルコトヲ要ス

第一號表

材 料 第 一 數	單材肋骨		敲 釘	肋 骨 心 距	梁
	肋根材	頂材			
以上 未滿 —8	平方吋 4	平方吋 3	吋 $\frac{5}{16}$	吋 13	平方吋 8
8—9	6	3	$\frac{5}{16}$	13	12
9—10	8	4	$\frac{5}{16}$	13	15
10—11	10	5	$\frac{5}{16}$	14	18
11—12	15	7	$\frac{5}{16}$	15	21
12—13	20	10	$\frac{3}{8}$	16	23
13—	26	13	$\frac{3}{8}$	17	29

第二號表

材 料 第 二 數	外 板 厚	外 板 ノ 敲 釘	甲 板 ノ 厚
1000—1400	$\frac{7}{8}$	$\frac{5}{16}$	$1\frac{1}{4}$
1400—1800	1	$\frac{5}{16}$	$1\frac{1}{2}$
1800—2500	$1\frac{1}{4}$	$\frac{5}{16}$	$1\frac{3}{4}$
2500—3500	$1\frac{1}{2}$	$\frac{3}{8}$	2
3500—	$1\frac{3}{4}$	$\frac{3}{8}$	2

第三號表  
發動機屬具表

名	稱	員	數	摘	要
吸	鑿	彈	環	氣筒二箇又ハ其ノ未滿毎二	一組



空氣壓搾機ノ壓搾筒吸鏢彈環	壓搾筒一箇每ニ二組	「ヂーゼル」發動機ナルトキ
接續鉸上下螺釘及母螺	一組	
接軸鏢螺釘及母螺	一組	
噴油辦	氣筒二箇又ハ其ノ未滿每ニ一箇	
吸氣辦及發條	氣筒二箇又ハ其ノ未滿每ニ一箇	
排出辦及發條	氣筒一箇每ニ一箇	
起動用辦	氣筒二箇又ハ其ノ未滿每ニ一箇	「ヂーゼル」發動機ナルトキ
掃除唧筒又ハ掃除空氣辦	一組	
給油唧筒辦	給油唧筒一箇每ニ一組	
冷箱唧筒辦	一組	
空氣壓搾機ノ空氣辦	一組	「ヂーゼル」發動機ナルトキ
滄水唧筒辦	一組	

點火器	氣筒二箇又ハ其ノ未滿每ニ二箇	
電池	常用電池一箇每ニ一箇	
發電子	常用ノ外一箇	
起動用燈	常用ノ外一箇	
同火口	常用ノ外燈一箇每ニ一箇	
電線	常用ノ外若干	
油管	常用ノ外若干	
空氣管	常用ノ外若干	
各種發條	常用ノ外若干	
螺釘及母螺	常用ノ外若干	
機關室用小道具	一揃	

備考

一本表ニ掲ケタル屬具中發動機ノ構造上使用ノ途ナキモノハ之ヲ備フルコトヲ要セス  
 二發動機二臺以上ヲ備フル船舶ニ在リテハ發動機一臺分ノ外之ヲ備ヘサルコトヲ得

遠洋漁船検査規程

附則

本令ハ大正七年法律第十一號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
本令施行前遠洋漁業獎勵金下付ノ許可ヲ受ケタルモノニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

(備考)

一、傍線ヲ施セル部分ハ大正十四年六月二十五日省令第二十號ヲ以テ改正セラレタル主要部分ヲ示ス

一、改正規程ハ大正十四年六月二十五日省令第二十號附則ニ依リ同日ヨリ之ヲ施行ス

一、改正規程施行前遠洋漁業獎勵金下付ノ許可ヲ受ケタルモノニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

○漁船検査規程

明治四十二年十月七日遞信省令第四十二號  
明治四十二年六月三日遞信省令第七十號(改正)  
大正元年十二月三日遞信省令第二十二號(改正)

第一編 總則

第一條 漁船ノ検査ハ本規程ニ依リ之ヲ行フ

第二條 検査官吏漁船ノ特別検査ヲ執行シタルトキハ左ノ種別ニ從ヒ該船舶ノ資格ヲ定ムヘシ

一 第一級漁船

二 第二級漁船

三 第三級漁船

四 第四級漁船

船舶検査法施行細則第三條第二項ニ掲クル船舶ノ資格ハ定期検査ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第三條 船體要部カ本規程ニ合格スル漁船ニ於テハ左ノ標準ニ依リ該船舶ノ資格ヲ定ムヘシ

第一級漁船		第二級漁船		第三級汽船		第四級汽船	
汽船	帆船	汽船	帆船	汽船	帆船	汽船	帆船
上甲板下噸數	最 強 速 力	上甲板下噸數	最 強 速 力	上甲板下噸數	最 強 速 力	上甲板下噸數	最 強 速 力
百噸以上	八節以上	三十噸以上	十五噸以上	無 制 限	同	同	同

船體要部ノ或部分カ本規程ニ合格セサル漁船ニ於テハ検査官吏カ航行ニ  
差支ナシト認ムルトキハ検査官吏ノ相當ト認ムル資格ヲ定ムヘシ

第四條 検査官吏漁船ノ特別検査ヲ執行シタルトキハ左ノ標準ニヨリ船體  
又ハ機關ノ特別検査ノ期間ヲ定ムヘシ

船體及ヒ機關（發動機ヲ除ク）

製造後十年未満ノモノ

五年

製造後十年以上十八年未満ノモノ

四年

製造後十八年以上ノモノ

三年

製造中検査ヲ受ケ製造シタル船體又ハ機關ハ年齢十五年未満ノモノニ限  
リ各特別検査ノ期間ヲ一年ツツ延長スルコトヲ得

第五條 第三條ニ掲クル船體要部トハ外板、甲板、肋骨、梁及ヒ以上各部  
ノ固著方ヲ謂フ

第六條 漁船ノ航路定限ハ其ノ資格ニ依リ左ノ標準ニ從ヒ之ヲ定ム

第一級漁船 遠洋航路、近海航路、沿海航路、平水航路

第二級漁船 近海航路、沿海航路、平水航路

第三級漁船 沿海航路、平水航路

第四級漁船 平水航路

第三級漁船ハ特ニ遞信大臣ノ認可ヲ受クルトキハ季節ヲ限り沿海航路外  
ノ漁場ニ航行スルコトヲ得

第七條 検査官吏ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ總噸數五十噸又ハ積石數

五百石未満ノ漁船及ヒ沿海航路ノ漁業帆船ハ据船ノ上又總噸數二十噸未

滿ノ漁船及ヒ平水航路ノ漁船ハ碇泊ノ儘特別検査ヲ執行スルコトヲ得

第八條 検査官吏ハ漁船ノ大小年齢及ヒ現狀ニ依リ検査準備ヲ變更若ハ増

減セシムルヲ得

第九條 漁船ノ検査ニ關シ本規程ニ規定ナキモノニ付テハ船舶検査規程ヲ  
適用ス

第十條 本規程及ヒ前條ニ掲クル規程ニ規定ナキモノニ付テハ漁業ノ種類

ニ依リ航行ノ適否ヲ目的トシ船體、機關、屬具、船員常用室及ヒ船員ニ  
關スル設備ヲ検査スヘシ

第二編 船體部

第一章 船體

第六二  
第十一條 上甲板下噸數二百噸以上ノ鐵製汽船及ヒ上甲板下噸數五百噸以上ノ木製汽船ニ於テハ機關室ヨリ船尾車軸管ニ通行シ得ヘキ車軸隧道ヲ設クヘシ但船尾ニ機關室ヲ有スル漁船ニシテ検査官吏ニ於テ適當ノ構造ヲ有スルモノト認ムルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十二條 石油發動機ヲ備フル漁船ノ機關室ニ於ケル隔壁及ヒ船體ノ部分木製ナルトキハ之ニ鉛板、鐵板若ハ亞鉛板ヲ張り又ハ其ノ他ノ方法ニ依リ燃燒ノ豫防ヲ爲スヘシ

第十三條 上甲板ニ設クル機關室口、艙口、載炭口、出入口其他ノ諸口ノ縁材ハ其ノ高甲板上面ヨリ第二級漁船ニ於テハ六吋以上、第一級漁船ニ於テハ九吋以上ト爲スヘシ但直接波浪ヲ受ケサル場所ニ於ケルモノ又ハ特殊ノ水密裝置ヲ備フルモノハ縁材ノ高ヲ減シ若ハ甲板上面ト平直ト爲スコトヲ得

第十四條 上甲板ニ設クル汽機室口及ヒ汽罐室口ニハ甲板上面ヨリ第二級

漁船ニ於テハ一呎半以上、第一級漁船ニ於テハ二呎以上ノ高ヲ有スル圍壁ヲ取附ケ汽機室口ノ上端ニ天窗ヲ設クヘシ

第十五條 艙口ニハ堅牢ナル蓋板ヲ備ヘ且之ヲ堅固ニ密閉シ得ヘキ様覆布及ヒ適當ノ締具ヲ備フヘシ但検査官吏カ覆布ト同一ノ效力ヲ有スルト認ムルモノヲ備フルトキハ覆布ハ之ヲ備ヘサルモ妨ナシ

暴露甲板ノ機關室口、載炭口、出入口其ノ他ノ諸口ニハ覆蓋又ハ蓋板及ヒ覆布竝ニ適當ノ締具ヲ備フルカ其他水密トナルヘキ裝置ヲ爲スヘシ但検査官吏ニ於テ水密ト爲スヘキ必要ナシト認ムル甲板口ハ此ノ限ニ在ラス

第二章 木製漁船

第十六條 第二數四千未満ノ漁船ニ於テハ船體ノ構造及ヒ寸法カ本章ノ定ムル所ト同一ノ強力ヲ有セサル場合ト雖モ検査官吏カ用途ニ差支ナシト認ムルトキハ第二級漁船ノ資格ヲ與フルコトヲ得

第十七條 漁船ノ内龍骨ノ寸法ハ龍骨ノ寸法ト等シク爲スコトヲ得  
第二數一萬二千五百未満ノ漁船ノ汽機及汽罐ノ下部ニ於ケル内龍骨ニハ堅材ヲ用井サルモ妨ナシ

第十八條 漁船ニ於テハ肋材銜接ノ避距ハ船ノ幅ノ九分ノ一以上ト爲スコトヲ得

第十九條 船底ノ形狀銳尖ナル漁船ニシテ肋根材ヲ中心線ノ兩側ニ止ムル場合ニ於テハ適當ナル副龍骨ヲ龍骨ノ上面ニ取附ケ其ノ上面ニ鐵製又ハ本製ノ根曲材ヲ附シ兩舷ノ肋根材ヲ連結スヘシ此ノ場合ニ於テハ内龍骨及ヒ側内厚板ハ之ヲ省略スルコトヲ得

第二十條 活魚倉ヲ有スル漁船ニシテ縦通隔壁ヲ設クルトキハ該隔壁ノ下部ニ縦通材ヲ取附ケ之ヲ活魚倉ノ前後ニ二肋骨間延長シ活魚倉兩端ノ肋骨ノ寸法ヲ増シ且該部外板ノ厚ヲ増ストキハ其ノ部分ニ於テ肋骨ノ心距及ヒ外板ノ幅ヲ増加シ梁ノ寸法ヲ輕減シ且内龍骨、側内厚板、内張板ヲ省略スルコトヲ得

第二十一條 蒸曲肋骨ト組合肋骨トヲ混用スル漁船ニ於テハ内龍骨、側内龍骨、側内厚板、彎曲部縦通材、梁受板等ヲ貫通スル固著敲釘ハ組合肋骨間ノ距離適當ナルトキハ組合肋骨ノミヲ貫通セシムルモ妨ナシ

第二十二條 第二數四千六百未満ニシテ幅深ノ二倍二分ノ一ヲ超エサル漁

船ニ於テハ側内厚板ヲ取附ケサルモ妨ナシ

第二十三條 彎曲部縦通材ノ各側ニ於ケル總幅ハ船ノ幅ノ九分ノ一以上ト爲スコトヲ得

第二十四條 梁壓材ノ寸法ハ之ヲ取附クル梁ノ兩端ノ截面ノ五分ノ四以上ト爲シ且梁トノ接面ニ於ケル幅ハ梁ノ幅ヨリ大ナラシムヘシ

第二十五條 第二數五千未満ノ漁船ニ於テハ梁受板、梁壓材、船鏢、彎曲部縦通材及ヒ側内厚板ノ嵌接ノ長ハ用材ノ幅ノ二倍以上ト爲シ適當ノ固著釘ヲ以テ固著スヘシ

第二十六條 第二數一萬未満ノ漁船ニ於テハ梁壓材ヲ以テ船鏢ヲ兼用スルコトヲ得

第二十七條 梁ノ寸法ハ乙材ヲ用井タルトキハ木船検査規程第四號表ニ據ルヘシ

汽船ノ甲板梁ノ心距ハ木船検査規程ニ定ムル肋骨ノ心距ノ二倍二分ノ一ト爲スコトヲ得但四呎ヲ超過スヘカラス  
甲板梁ノ心距本規程ニ定ムル心距ヨリ小ナルトキハ心距ノ割合ニ應シ梁

ノ寸法ヲ減スルコトヲ得

梁柱ノ數ヲ増ストキハ適當ニ梁ノ寸法ヲ減スルコトヲ得

第二十八條 木製梁柱ノ截面ハ船ノ幅ト深ノ和每一呎半ニ付一平方呎ノ割

合ト爲スヘシ

第二十九條 深五呎未滿ノ漁船ニ於テハ船首肘材ノ數ハ一箇ト爲シ船尾肘材ハ之ヲ省略スルコトヲ得

第三十條 第二數四千四百未滿ノ漁船ニ於テハ汽機室口、汽罐室口、長五呎以上ノ艙口兩端梁及ヒ檣ノ前後ノ板ノ外梁曲材ハ之ヲ省略スルコトヲ得

第三十一條 第二數一萬二千五百未滿ノ漁船ニ於テハ柔材ヲ以テ肋骨ヲ構成スル場合ト雖モ梁曲材ニ用ウル敲釘ハ外板迄貫通セシムルヲ要セス

第三十二條 第二數四千未滿ノ漁船ニ於テハ内張板ヲ設クルコトヲ要セス又第二數八千五百未滿ノ漁船ニ於テ外板ノ厚ヲ増シ且彎曲部縱通材ノ幅ヲ増ストキハ内張板ヲ設クルコトヲ要セス

第三十三條 第二數二萬五千未滿ノ漁船ニ於テハ外部腰板ヲ設クルコトヲ

要セス

第三十四條 長深ノ八倍ヲ超ユルカ又長幅ノ五倍ヲ超ユル漁船ニ於テハ梁壓材及ヒ舷側厚板ハ十分ノ一以上内龍骨ハ五分ノ一以上適當比例ニ從ヒ適當ニ其ノ截面ヲ増スカ若クハ適當ノ補強構造ヲ爲スヘシ

第三十五條 低船首樓甲板又ハ低船尾樓甲板及ヒ上甲板ノ梁壓材並ニ梁受材又ハ梁受板ハ第二數八千八百未滿ナルトキハ肋骨ノ心距ノ三倍以上、第二數四千二百未滿ナルトキハ肋骨ノ心距ノ二倍以上相累ヌヘシ

第三十六條 漁船ノ汽機室口及ヒ汽罐室口ノ兩側ハ堅材ノ木甲板ヲ張ルヲ要セス且第二數八千五百未滿ノ漁船ニ於テハ汽機室口及ヒ汽罐室口ノ半梁ニ附スル橫梁曲材ハ適當ニ其ノ數ヲ減スルコトヲ得

第三十七條 長十呎未滿ノ機關室口ニハ木船検査規程第十五章第八條ニ規定スル構造ヲ爲ササルモ妨ナシ

第三十八條 彎曲部縱通材ノ各材ノ幅五吋未滿ナルトキハ肋骨一本置ニ敲釘ヲ以テ、其ノ他ノ肋骨ニハ打込釘ヲ以テ固著スルコトヲ得

第三十九條 梁受材又ハ梁受板ノ幅七吋未滿ナルトキハ肋骨毎ニ敲釘一箇

ヲ以テ固著スルコトヲ得

第四十條 内部腰板及ヒ各層梁ノ副梁受板ノ固著敲釘ハ外板迄貫通セサルモ妨ナシ

第四十一條 第二數五千未満ノ漁船ニ於テハ船鏢ト舷側厚板トノ固著ニ打込釘ノミヲ用ウルコトヲ得

第四十二條 梁曲材ノ兩腕ニ於ケル固著釘ノ總數ハ五箇迄減スルコトヲ得  
第四十三條 外板ハ其ノ幅八吋半未満ナルトキハ肋骨毎ニ二箇、幅八吋半以上十吋半未満ナルトキハ肋骨毎ニ三箇、幅十吋半以上ナルトキハ肋骨毎ニ四箇ノ釘ヲ以テ固著スヘシ但外板ノ幅十吋半以上ナルトキト雖モ單材ヲ以テ肋骨ヲ構成スル漁船及ヒ肋骨毎ニ木釘ヲ用ウル漁船ニ於テハ肋骨毎ニ三箇ヲ用ウルモ妨ナシ

第四十四條 漁船ノ舵心材ノ寸法ハ検査官吏ノ見込ニ依リ適當ニ之ヲ輕減スルコトヲ得

第四十五條 第二數五千未満ノ漁船ニ於テハ船底包板ハ最大吃水線上六吋ノ所迄張詰ムルモ妨ナシ

第四十六條 漁船ノ「ジッブーム」「フライイング、ジッブーム」「ブーム」ノ徑ハ長九呎ニ付二吋、「スクーナ」ノ「ガフ」ノ徑ハ長五呎ニ付一吋ト爲スコトヲ得

第三章 鐵製漁船

第四十七條 第二級漁船ニシテ漁業上輕快ナル動作ヲ要スル漁船ニ於テハ第二數五千未満ノモノニ限リ検査官吏ニ於テ適當ノ構造ヲ有スルト認ムルトキハ左ノ規定ニ從ヒ各部ノ寸法ヲ輕減スルコトヲ得

- 一 正肋材及ヒ副肋材ノ横邊ノ幅ヲ各二分ノ一時減少シ且肋骨ノ心距ヲ二十四吋迄ニ爲スコト
- 二 船底ノ形狀銳尖ナル漁船ニ於テ肋板ノ高又ハ厚ヲ増加スルトキハ二箇ノ内龍骨用山形材ヲ以テ中心線内龍骨ヲ構成スルコト
- 三 梁ヲ肋骨毎ニ取付クルトキハ其寸法ハ正肋材ノ寸法ト等シク又梁上側板、梁上帶板、梁上側板ニ附スル山形材ノ寸法ヲ鐵鋼船検査規程ニ定ムル寸法ノ四分ノ一以内輕減スルコト
- 四 舵心材及ヒ舵針ノ寸法ハ検査官吏ノ見込ニ依リ適當ニ之ヲ輕減スル

第四章 屬具

第四十八條 近海航路以上ノ帆船ニハ左ノ豫備帆ヲ備フヘシ

- 横帆ヲ備ヘサル船
  - スクーナー
    - フオールステースル 一箇
    - フオールスル 一箇
  - カッター、ケッチ、スループ
    - フオールステースル 一箇
  - ラッガー
    - フオールスル 一箇
    - フオールスル又ハメインスル 一箇
    - フオールステースル 一箇
    - トップスル 一箇

横帆ヲ備フル船

第四十九條 總噸數三十噸以上若ハ積石數三百石以上ニシテ沿海航路以上

ノ漁船ニハ其ノ噸數及ヒ業務ノ種類ニ應シ左ノ規定ニ從ヒ第一號表ニ據リ漁艇ヲ備フヘシ此ノ場合ニ於テハ船舶検査規程ニ定ムル端艇ヲ備フルコトヲ要セス

一 漁艇ニハ船首其ノ他見易キ場所ニ其ノ容積、船名及ヒ船籍港ヲ表示

スヘシ

- 二 漁艇ニハ必要ナル附屬品ノ外豫備トシテ櫂、櫂架、放水口ノ栓、塗杓及ヒ鉤竿各一箇以上ヲ備フヘシ
- 三 漁艇ニハ適當ナル揚卸装置ヲ備フヘシ但容積百立方呎未満ノ漁艇ハ之ヲ備ヘサルモ妨ナシ

第五十條 屬具ハ第二號表ニ據リ之ヲ備フヘシ

第五章 船員常用室

第五十一條 近海航路以上ノ漁船ノ船員常用室ハ検査官吏ノ適當ト認ムル場所ニ設クルコトヲ得

第五十二條 近海航路以上ノ鰹釣漁船ニ於テハ船員總數ノ三分ノ一カ必要ノ場合ニ於テ休息シ得ヘキ船室ヲ甲板下ニ有スルトキハ別ニ船員常用室ヲ設ケサルモ妨ナシ

第五十三條 近海航路以上ノ漁船ノ船員常用室ニハ適當ノ通風管ヲ設ケ其ノ截面ハ船員常用室ノ定員一人ニ付二平方呎半ノ割合ニ以テ之ヲ定ムヘシ



第五十四條 近海航路以上ノ漁船ノ船員定員ヲ算出スルニハ船員室ノ容積及ヒ面積ヲ漁船ノ航路定限ニ應シ船舶検査法施行細則附録旅客定員算出表ニ規定スル三等旅客定員一人分最小容積及ヒ面積ヲ以テ除去シ其ノ容積ト面積トニ依リ算出シタル員數ヲ比較シ其ノ少數ヲ以テ該室ノ船員定員ト爲スヘシ

第三編 機關部

第一章 汽機、汽罐及ヒ發動機

第五十五條 船舶検査法施行細則第四條第二項ニ依リ船舶ノ製造中其ノ特別検査ヲ執行スルトキハ左ノ時期ニ於テ臨檢スヘシ

- 一 汽機ノ汽笛、冷汽器、唧筒、船尾管等ノ仕上ヲ了リタルトキ及ヒ諸軸、諸鐸ノ粗削ヲ爲シタルトキ
- 二 汽罐各部ノ組立ヲ爲シ鉸釘孔ヲ精穿シタルトキ
- 三 發動機ノ氣笛、吸鑿、諸軸、軸鐸、諸瓣及ヒ推進器逆轉機又ハ推進器轉翅機ノ仕上ヲ了リタルトキ
- 四 瓦斯發生爐及ヒ瓦斯洗滌器ノ組立ヲ了リタルトキ

五 水壓試驗執行ノトキ

六 其ノ他検査官吏ノ必要ト認ムルトキ

第五十六條 (削除)

第五十七條 機關検査規程第六條乃至第十一條、第十五條、第十八條及第十九條ノ規定ハ之ヲ漁船ノ機關ニ適用セス

第二章 唧筒、瓣、嘴子、管及ヒ屬具等

第五十八條 機關室ニハ正給水唧筒及ヒ正滲水唧筒各一箇ヲ備フヘシ

第五十九條 上甲板下ノ噸數百噸未滿ノ近海航路以上ノ漁船ニ於テハ船舶

検査規程第一百五十條ノ装置ヲ備フルヲ要セス

第六十條 屬具ハ第三號表及ヒ第四號表ニ據リ之ヲ備フヘシ但平水航路ノ漁船ニ於テハ汽船ニ在リテハ船舶検査規程第八號表、發動機船ニ在リテハ同規程第九號表ニ據ルヘシ

第一號表

總噸數	最少艇數	一隻ノ最少容積	漁艇表	
			摘	要
三十噸以上五十噸未満	一	七十立方呎	獵虎、臘肭獸獵船ハ二隻以上ヲ要ス	
五十噸以上百噸未満	一	八十立方呎	獵虎、臘肭獸獵船ハ四隻以上、旋網帆船ハ二隻以上ヲ要ス	
百噸以上二百噸未満	一	八十立方呎	鯨獵帆船、旋網帆船及ヒ流網帆船ハ二隻以上、延繩帆船ハ三隻以上、獵虎、臘肭獸獵船ハ五隻以上ヲ要ス	
二百噸以上三百噸未満	二	八十立方呎	一本釣帆船ハ三隻以上、鯨獵帆船及ヒ延繩帆船ハ四隻以上、獵虎、臘肭獸獵船ハ六隻以上ヲ要ス又鯨獵汽船、トロール、漁船、流網汽船、延繩汽船、漁獲物處理運搬船ハ一隻ニ減スルコトヲ得此ノ場合ニハ漁艇ノ容積ヲ適當ニ増スヘシ	
三百噸以上四百噸未満	二	九十五立方呎		
四百噸以上五百噸未満	二	二百二十五立方呎		
五百噸以上	三	三百五十立方呎		

第二號表

名	航路定限				船體部屬具表	
	汽船	帆船	汽船	帆船	汽船	帆船
救命浮環	四	四	二	二	二	一
救命焰	二	一	二	一	一	一
檣燈	一	一	一	一	一	一
舷燈	一對	一對	一對	一對	一對	一對
碇泊燈	一	一	一	一	一	一
漁業燈	一揃	一揃	一揃	一揃	一揃	一揃
紅燈	二	二	二	二	二	二
黑球	二	二	二	二	二	二
火箭若ハ榴彈	六	六	二	二	二	一
霧中號角	一	一	一	一	一	一

備考 旋網帆船及ヒ鯨獵帆船ニ於テハ各艇ノ容積百五十立方呎以上ナルヲ要ス  
石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ於テハ積石數十石ヲ總噸數一噸ニ換算シテ本表ヲ適用ス

漁船検査規程

名	機關屬具表	
	稱	數
	遠洋航路	近海航路以下
	摘	
	要	

第三號表

斧	消防用手桶	航海曆	雙眼鏡	寒暖計	晴雨計	手用測鉛	砂漏計	手用測程具
二	四	一	一	一	一	一	一	一
二	四	一	一	一	一	一	一	一
一	四	一	一	一	一	一	一	一
一	四	一	一	一	一	一	一	一
一	二	一	一	一	一	一	一	一
一	二	一	一	一	一	一	一	一
一	二	一	一	一	一	一	一	一

總噸數三十噸未滿又ハ積石數三百石未  
滿ノ漁船ニ依リテハ漁場ニ依リ検査官  
吏ノ見込ニ依リ之ヲ備ヘサルモ妨ナシ

海水ヲ測ルニ適當ナルヲ要ス

總噸數三十噸未滿又ハ積石數三百石未  
滿ノ漁船ニハ之ヲ備ヘサルモ妨ナシ

二箇ヲ有スルモノハ一箇ハ天象岬角ヲ  
測リ得ヘキ器具ヲ備フルヲ要ス又近海  
航路ノ帆船ニ依リテハ漁場ニ依リ日本  
形磁石ヲ用フルモ妨ナシ

六分儀	時辰儀	羅針儀	時計	船名錄	信號書	信號旗	國旗	號鐘
一	一	二	二	一	一	一組	二	一
一	一	二	一	一	一	一組	二	一
一	一	一	一	一	一	一組	一	一
一	一	一	一	一	一	二旗NC	一	一
一	一	一	一	一	一	二旗NC	一	一
一	一	一	一	一	一	二旗NC	一	一
一	一	一	一	一	一	二旗NC	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一

二箇ヲ有スルモノハ一箇ハ天象岬角ヲ  
測リ得ヘキ器具ヲ備フルヲ要ス又近海  
航路ノ帆船ニ依リテハ漁場ニ依リ日本  
形磁石ヲ用フルモ妨ナシ

總噸數百五十噸未滿及ヒ石數ヲ以テ積  
量ヲ表示スル帆船及ヒ總噸數五十噸未  
滿ノ汽船ニハ之ヲ備ヘサルモ妨ナシ  
總噸數百五十噸未滿及ヒ石數ヲ以テ積  
量ヲ表示スル帆船及ヒ總噸數五十噸未  
滿ノ汽船ニハ之ヲ備ヘサルモ妨ナシ  
對スル信號旗ヲ備フヘシ  
信號符字ノ點附アルモノハ其ノ符字ニ  
ナシ但NC旗ノミヲ備フル漁船ト雖モ  
滿ヲ表示スル帆船及ヒ總噸數五十噸未  
滿ノ汽船ニハNC旗ノミヲ備フルモ妨  
ナシ但NC旗ノ點附アルモノハ其ノ符字ニ  
對スル信號旗ヲ備フヘシ

吸 罎 彈 環	吸 罎 發 條	吸 罎 螺 釘 及 ヒ 母 螺	滑 辦 鐸	接 續 鐸 上 下 ノ 螺 釘	主 軸 受 螺 釘 及 ヒ 母 螺	接 軸 鐸 螺 釘 及 ヒ 母 螺	冷 汽 管 填 箍	冷 汽 管 填 箍	排 氣 唧 筒 辦	循 環 唧 筒 辦
各 吸 罎 一 組	各 吸 罎 一 組	總 數 ノ 四 分 ノ	各 滑 辦 一 箇 宛	上 下 各 一 組	一 組	一 組	總 數 ノ 二 十 分	總 數 ノ 三 十 分	半 組	一 組
同	同	同	同	同	同	同			同	同
上	上	上	上	上	上	上			上	上
同形ニシテ相轉用シ得ルモノハ一組 ニ止ムルコトヲ得又機關ヲ有スル帆 船ニ在リテハ之ヲ備ヘサルモ妨ナシ 同形ニシテ相轉用シ得ルモノハ一組 ニ止ムルモ妨ナシ	同形ニシテ相轉用シ得ルモノハ一組 ニ止ムルコトヲ得又機關ヲ有スル帆 船ニ在リテハ之ヲ備ヘサルモ妨ナシ 同形ニシテ相轉用シ得ルモノハ一組 ニ止ムルモ妨ナシ	機關ヲ有スル帆船ニ在リテハ之ヲ備 ヘサルモ妨ナシ	機關ヲ有スル帆船ニ在リテハ之ヲ備 ヘサルモ妨ナシ	機關ヲ有スル帆船ニ在リテハ之ヲ備 ヘサルモ妨ナシ	機關ヲ有スル帆船ニ在リテハ之ヲ備 ヘサルモ妨ナシ	機關ヲ有スル帆船ニ在リテハ之ヲ備 ヘサルモ妨ナシ	但十本ヲ最少ノ限度トス	但三十箇ヲ最少ノ限度トス 木製ナルトキハ填箍器ヲ添フ	單辦裝置ナルトキ	單辦裝置ナルトキ

給 水 唧 筒 辦 及 ヒ 座	制 限 辦 及 ヒ 座	滄 水 唧 筒 辦 及 ヒ 座	安 全 辦 發 條	火 床 架	驗 水 器 硝 子	管 擴 器	管 塞 器	滑 車 及 ヒ 綱	螺 旋 切 道 具	錐 孔 器
一 組	一 組	一 組	一 組	一 組	各 鐘 二 付 四 箇	一 箇	八 箇	一 組	一 組	一 箇
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上
護 謨 製 ナ ル ト キ	護 謨 製 ナ ル ト キ	金 屬 製 ナ ル ト キ		但 四 箇 ヲ 最 少 ノ 限 度 ト ス				但 內 半 數 ハ 汽 鐘 前 面 ニ 於 テ 直 ニ 使 用 シ 得 ヘ キ モ ノ ナ ル ヲ 要 ス 機 關 ヲ 有 ス ル 帆 船 ニ 在 リ テ ハ 之 ヲ 備 ヘ サ ル モ 妨 ナ シ	同	同

第四號表

据附	萬力	一	筒	同	上	同
鐵板	若	干				
鐵棒	若	干				
螺釘及ヒ母螺	若	干	同	上		
機關室用小道具	一	揃	同	上		
驗鹽器	一	筒	同	上		
寒暖計	一	筒	同	上		
備考	汽機二臺以上ヲ備フルモノニ在リテハ表中ノ吸鏢彈環乃至淪水唧筒辦及ヒ座ハ汽機一臺分ノ外之ヲ備ヘサルモ妨ナシ					
名稱	種類	發動機屬具表				
吸鏢彈環	氣箭二箇每二一組	同	上	同	上	上
吸入辦	氣箭二箇每二一箇	同	上	同	上	上
排出辦	氣箭一箇每二一箇	同	上	同	上	上

發條	各種	一揃	同	上	同	上
給油唧筒辦	給油唧筒一箇每二一組	同	上	同	上	上
冷箭唧筒辦	氣箭二箇每二一組	同	上	同	上	上
點火器	—	氣箭一箇每二二箇	同	上	同	上
電氣點火器	氣箭二箇每二一箇	—	—	—	—	—
發電子	一箇	—	—	—	—	—
電池	四箇	—	—	—	—	—
起動用燈	發動機一臺每二一箇	同	上	同	上	上
同火口	燈一箇每二一組	同	上	同	上	上
接續銲上下螺釘	一組	同	上	同	上	上
螺釘及母螺	各種	若干	同	上	同	上
機關室用小道具	一揃	同	上	同	上	上
備考	發電子ハ發電機ヲ以テ點火スル發動機ニ限リ之ヲ備フヘシ起動用燈ハ自然點火式發動機ニ在リテハ本表ニ掲クルモノノ外常用トシテ氣箭一箇每二一箇ヲ備フヘシ					
						氣箭ノ數二箇又ハ一箇每二一箇、氣箭ノ數二箇又ハ一箇ヲ加フル每二一箇ヲ加フ

木船検査規程

○木船検査規程

明治三十三年十二月遞信省令第八十九號  
明治四十三年六月省令第六十七號(改正)  
大正十一年省令第五號(改正)

第一章 總則

第一條 此ノ規程ニ於テ重甲板船ト稱スルハ其ノ上甲板下ニ隨意ニ重量ノ貨物ヲ積載シ得ヘキ船舶ヲ謂フ

輕甲板船ト稱スルハ二層以上ノ甲板ヲ有シ其ノ構造重甲板船ニ比シ稍輕裝ニシテ其ノ正甲板上ニハ船員、旅客若ハ輕量ノ貨物ヲ搭載シ其ノ上甲板上ニハ船首樓、船尾樓、又ハ全面積ノ十分ノ一以上ノ甲板室ヲ設置スルニ適セサル船舶ヲ謂フ

重甲板船ノ上甲板ヲ重甲板、輕甲板船ノ上甲板ヲ輕甲板ト謂フ

第二條 此ノ規程ニ於テ船ノ長ト稱スルハ上甲板梁上ニテ船首材ノ後面ヨリ單螺旋汽船ナルトキハ舵柱ノ前面迄、雙螺旋汽船、外車汽船及ヒ帆船ナルトキハ船尾材ノ前面迄ノ水平距離ヲ謂フ但上部彎曲ノ船首材ヲ備フル船舶ニ於テハ該材下部ノ後面ニ沿フテ眞直ニ延長シタル線ト甲板梁ノ上面線トノ交叉點ヨリ測リタル水平距離ヲ謂フ

幅ト稱スルハ船體ノ最廣部ニ於ケル肋骨ノ外面ヨリ外面迄ノ距離ヲ謂フ  
深ト稱スルハ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外船體ノ中央ニ於テ龍骨ノ上面ヨリ上甲板梁ノ上面迄ノ距離ヲ謂フ

第三條 此ノ規程ニ於テ第一數ト稱スルハ重甲板船ニ於テハ深ト幅ノ二分ノ一トヲ加ヘタル數ヲ謂フ又輕甲板船ニ於テハ輕甲板梁及ヒ正甲板梁間ノ高ノ二分ノ一ノ所迄ノ深トヲ相乘シタル數ヲ謂フ

第二數ト稱スルハ重甲板船ニ於テハ長ト幅ト深トヲ相乘シタル數ヲ謂フ又輕甲板船ニ於テハ長ト幅ト輕甲板梁及ヒ正甲板梁間ノ高ノ二分ノ一ノ所迄ノ深トヲ相乘シタル數ヲ謂フ

前二頂ノ長、幅、深及ヒ高ハ呎ヲ以テ本位トシ呎以下ハ一位ニ止メ其ノ以下ハ四捨五入スヘシ

第四條 此ノ規程ニ於テハ特ニ其ノ條項ニ規定シタル場合ヲ除クノ外船ノ長、深ノ八倍ヲ超エサル船舶ノ構造方法ヲ示シ又寸法及ヒ員數ハ最小ノ限度ヲ、距離ハ最大ノ限度ヲ示シタルモノトス

第五條 肋骨ノ寸法及ヒ心距ハ第一數ニ依リ之ヲ定メ龍骨、船首材、船尾

材、舵柱、内龍骨、側内厚板、船尾横翼材、梁受板、副梁受板、梁曲材、彎曲部縦通材、船鏝、外板、内張板、木甲板、舵心材及ヒ舵針等ノ寸法及ヒ舵針ノ數ハ第二數ニ依リ之ヲ定メ梁ノ寸法ハ船體ノ中央ニ於ケル各層梁ノ長ニ依リ之ヲ定ムヘシ

第六條 第一級船及ヒ第二級船ノ船體ノ各部ノ寸法ハ別表ニ據ルヘシ  
第三級船及ヒ第四級船ノ船體ノ構造及ヒ寸法ハ此ノ規程ニ適合セサルモノト雖モ検査官吏ニ於テ適當ト認ムルトキハ此ノ規程ニ適合スルモノト看做ス但第十五章第三條第一項、第二十一章及ヒ第二十二章ニ規定スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第七條 此ノ規程ニ該當セサル船體ノ構造方法ハ検査官吏ニ於テ此ノ規程ト同一ノ效力ヲ有スルト認ムルトキハ此ノ規程ニ適合スルモノト看做ス

### 第二章 材料

第一條 木材ハ有害ナル節瘤其ノ他ノ缺點ヲ有セスシテ充分乾燥シタルモノナルヲ要ス

第二條 曲材ハ總テ天然ノ屈曲材ニシテ木目ノ貫通セルモノナルヲ要ス

第三條 木材ヲ蒸曲ケシテ用ウルトキハ蒸曲ケタル後裂疵ヲ生セサルモノナルヲ要ス

第四條 此ノ規程ニ規定スル副内龍骨、側内龍骨、梁受材、梁壓材、副梁壓材、船首肘材、船尾肘材、梁曲材、内部腰板、縦梁、橋孔板及ヒ艙口縁材等ノ寸法ハ第一號表甲欄ニ掲クル材料ヲ用井タルトキノ寸法トス

第五條 「チーク」ヲ第一號表甲欄ニ掲クル木材ニ代用スルトキハ百分ノ十二以下又乙欄ニ掲クル木材ニ代用スルトキハ百分ノ二十以下其ノ截面ヲ別表ニ掲クルモノヨリ減スルコトヲ得

「オレゴンパイン」ハ第一號表乙欄ニ掲クル木材ニ代用スルコトヲ得

第六條 第一號表甲欄ニ掲クル木材ノ代リニ乙欄ニ掲クル木材ヲ用ウルトキハ百分ノ十二以上、丙欄ニ掲クル木材ヲ用ウルトキハ百分ノ二十二以上又丁欄ニ掲クル木材ヲ用ウルトキハ百分ノ三十二以上其ノ截面ヲ別表ニ掲クルモノヨリ増スコトヲ要ス

第七條 第一號表乙欄ニ掲クル木材ノ代リニ甲欄ニ掲クル木材ヲ用ウルトキハ其ノ截面ヲ別表ニ掲クルモノヨリ百分ノ十二以下減スルコトヲ得

第八條 第一號表乙欄ニ掲クル木材ノ代リニ丙欄ニ掲クル木材ヲ用ウルトキハ百分ノ十五以上、丁欄ニ掲クル木材ヲ用ウルトキハ百分ノ二十五以上其ノ截面ヲ別表ニ掲クルモノヨリ増スコトヲ要ス

第九條 此ノ規程ニ規定スル鐵材ノ代リニ鋼材ヲ用ウルトキハ其ノ截面ヲ百分ノ二十以下減スルコトヲ得

第三章 龍骨、船首材、船尾材、舵柱、力材、

船尾縱翼材及ヒ船尾管胴材

第一條 龍骨、船首材及ヒ船尾材ノ寸法ハ第三號表ニ據ルヘシ

第二條 龍骨ヲ構成スル各材ノ長ハ船ノ首尾兩端ニ用ウルモノヲ除クノ外三十五呎以上ナルヲ要ス

前項ノ長ヨリ短キ材ヲ龍骨ニ使用スルトキハ其ノ下面ニ副龍骨ヲ附スヘシ此ノ場合ニ於ケル龍骨ノ深ハ第三號表ニ掲クル龍骨ノ深ノ三分ノ二以上、副龍骨ノ深ハ其ノ二分ノ一以上ト爲スヲ要ス

龍骨ニハ龍骨翼板ヲ受クルニ適當ナル溝ヲ穿テ尙溝ノ上部ニハ適當ナル縁ヲ殘シ置クヘシ

第三條 龍骨ノ嵌接ハ鉤形水平嵌接ト爲スコトヲ要ス但木栓ヲ以テ特ニ固著スルトキハ平面水平嵌接ト爲スコトヲ得

嵌接ノ長ハ用材ノ深ノ五倍以上、其ノ端末ニ於ケル龍骨ノ深ハ用材ノ深ノ四分ノ一以上ト爲スヘシ

龍骨ノ嵌接ハ副龍骨及ヒ龍骨翼板ノ嵌接ト五呎以上相避距シ且檣根及ヒ艙口ト適當ニ避距スヘシ

嵌接ニハ其ノ兩端ニ二箇ツ、其ノ中間ニ十二吋ノ心距ニ敲釘ヲ用井テ緊著スヘシ

嵌接ニハ適當ノ位置ニ浸水ヲ防ク爲メ水留栓ヲ打込ムヘシ

第四條 船首材ノ寸法ハ滿載吃水線ヨリ上部ニ至ルニ從ヒ漸次減少シテ頂上ニ於ケル截面ハ第三號表ニ掲クルモノ、四分ノ三ト爲スコトヲ得

船首材ハ一材ニテ作ルヘシ但第二數五萬以上ノ船舶ニ於テハ二材ヲ以テ作ルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ嵌接ノ長ヲ用材ノ深ノ三倍二分ノ一以上ト爲シ且適當ナル副船首材ヲ設クヘシ

船首材ト龍骨トノ嵌接ノ長ハ用材ノ深ノ四倍以上ト爲シ其ノ構造ハ總テ



本章第三條ニ規程セル龍骨ノ嵌接ニ等シクスヘシ

船首材ノ下部屈曲セスシテ龍骨ニ衝接スルトキハ筭ヲ作出シテ相撤込ミ鳩尾形金具ヲ兩面ニ附シ且根曲材ヲ以テ固着スヘシ又接合ニハ適當ノ位置ニ浸水ヲ防ク爲メ水留栓ヲ打込ムヘシ

第五條 雙螺旋汽船、外車汽船及ヒ帆船ノ船尾材ハ眞直ナル一材ヲ以テ作り上甲板迄達セシメ其ノ下部ニ於テ龍骨トノ固着法ハ前條第四項ニ依ルヘシ

雙螺旋汽船、外車汽船及ヒ帆船ノ船尾材ノ寸法ハ舵頭管ノ下部ヨリ漸次減少シテ頂上ニ於ケル截面ハ第三號表ニ掲クルモノ、四分ノ三ト爲スコトヲ得

第六條 單螺旋汽船ノ船尾材ハ眞直ナル一材ヲ以テ作り正甲板迄達セシメ其ノ下部ニ於テ龍骨トノ固著法ハ本章第四條第四項ニ依ルヘシ

單螺旋汽船ノ船尾材ノ車軸孔ノ兩側ニ於ケル厚ハ第三號表ニ掲クル寸法ノ五分ノ三ヨリ小ナルヘカラス單螺旋汽船ノ舵柱ノ寸法ハ第三號表ニ掲クル船尾材ニ等クシ舵頭管ノ下部ヨリ漸次減少シテ頂上ニ於ケル截面ハ

其ノ四分ノ三ト爲スコトヲ得

單螺旋汽船ノ舵柱ハ筭ヲ作出シテ龍骨ニ嵌込ミ且船尾材、龍骨及ヒ舵柱ニ跨ル黃銅製金具ヲ兩面ニ取附ケ三材ノ結合ヲ堅固ニ爲スヘシ但龍骨ヲ船尾材ニ止ムルトキハ特ニ堅牢ナル黃銅製金具ヲ以テ三材ノ結合ヲ堅固ナラシムヘシ

單螺旋汽船ノ船尾材及ヒ舵柱ハ其ノ上部ニ於テ兩面ニ第三號表ニ掲クル船尾材ノ截面ノ二分ノ一ヨリ少カラサル船尾縱翼材ヲ以テ相挾ミ其ノ空隙ニハ填材ヲ挿入シテ緊著スヘシ

第七條 船首材及ヒ船尾材ニハ外板ノ端末ヲ受クルニ適當ナル溝ヲ穿ツヘシ

第八條 船ノ首尾ニ於ケル力材ノ高ハ斜肋骨ノ下部ヲ取附クルニ充分ナラシメ其ノ厚ハ龍骨ノ厚ニ等クスヘシ

第九條 船尾管ノ通スル部分ニ於ケル胴材ハ堅材ヲ以テ作り其ノ寸法ハ船尾管ノ徑ノ二倍以上ト爲スヘシ

第四章 肋骨及ヒ船尾橫翼材

第一條 肋骨ハ總テ天然ノ曲材ヲ以テ構成シ其ノ寸法ハ第二號表ニ據ルヘシ但肋材ノ深ハ其ノ厚ヨリ小ナルヘカラス

第二條 長短肢肋根材ヲ以テ肋骨ヲ構成スルトキハ船ノ中央部ニ於テハ肋根材ノ總長ハ船ノ幅ノ五分ノ二以上ト爲シ且肋根材ハ船ノ幅ノ七分ノ一以上相累接セシムヘシ

第三條 肋根材及ヒ半肋根材ヲ以テ肋骨ヲ構成スルトキハ船ノ中央部ニ於テハ肋根材ノ長ヲ船ノ幅ノ四分ノ一以、上半肋根材ノ總長ヲ船ノ幅ノ五分ノ三以上ト爲スヘシ且半肋根材ノ衝接ハ龍骨ノ中心ヲ交互ニ二吋以上左右ニ隔離スルヲ要ス

第四條 第一數二十七未滿ノ船舶ニ於テハ肋材衝接ノ避距ハ船ノ幅ノ八分ノ一以上、第一數二十七以上ノ船舶ニ於テハ船ノ幅ノ九分ノ一以上ト爲スヘシ

肋材ノ衝接ハ總テ密接セシメ木栓等ヲ以テ相嵌合スヘシ但第一數二十三未滿ノ船舶ニ於テハ木栓等ヲ省略スルコトヲ得

肋骨ヲ構成スル肋材ハ其ノ衝接ノ兩側ニ一箇以上ノ敲釘若ハ木釘ヲ以テ

緊著シ且衝接ノ避距大ナルトキハ衝接ノ中間ニ於テ木釘若クハ打込釘ヲ以テ固著スヘシ

第五條 嵌接シタル單材ヲ以テ肋骨ヲ構成スルトキハ其ノ嵌接ノ長ハ用材ノ深ノ三倍以上ト爲シ三箇以上ノ敲釘ヲ以テ緊著スヘシ又衝接シタル單材ヲ以テ肋骨ヲ構成スルトキハ用材ノ截面ニ等キ截面ヲ有シ其ノ總長用材ノ深ノ四倍以上ヲ有スル添材ヲ取附ケ衝接ノ兩側ニ二箇以上ノ敲釘ヲ以テ緊著スヘシ

第六條 蒸曲材ヲ以テ肋骨ヲ構成スルトキハ其ノ寸法ハ第二號表ニ掲クルモノヨリ減スルコトヲ得但此場合ニ於テハ肋骨ノ心距ヲ適當ニ減スヘシ

第七條 肋骨ノ心距ハ第二號表ニ據ルヘシ但帆船ニ於テハ其ノ一倍四分ノ一迄増スコトヲ得

第八條 船ノ幅、深ノ三倍以上ナルトキハ中央部ニ於テ船ノ長ノ二分ノ一間ハ肋骨ノ心距ヲ減スルカ若ハ肋骨ノ寸法ヲ増スヘシ

第九條 船首肋材及ヒ錨鎖孔材ハ各一材ヲ以テ作り其ノ厚ハ肋骨ノ厚ノ二

倍以上ト爲スヘシ

船首材ヨリ錨鎖孔材ノ後部適當ナル距離ノ所迄肋骨ノ間隙ニハ填材ヲ挿入スヘシ

第十條 船尾肋材ハ其ノ寸法ヲ踵部ニ於テハ肋材ノ頂部ノ截面ノ一倍三分ノ一以上、頂部ニ於テハ四分ノ三以上ト爲シ船尾縱翼材又ハ船尾橫翼材ニ緊著スヘシ

第十一條 第二數五萬以上ニシテ肋骨柔材ナルトキハ第十三章第三條ニ規定スル斜帶板ヲ取附クヘシ

第十二條 肋骨ノ寸法規定ノ寸法ヨリ小ナルトキ又ハ肋骨ノ心距規定ノ心距ヨリ大ナルトキハ適當ノ斜帶板ヲ肋骨ニ取附クヘシ

第十三條 船尾橫翼材ハ成ルヘク一材ヲ以テ作り其ノ寸法ハ第三號表ニ據ルヘシ

#### 第五章 内龍骨、側内厚板及ヒ彎曲部縱通材

第一條 内龍骨及ヒ側内厚板ノ寸法ハ第三號表ニ據ルヘシ

第二條 内龍骨ヲ構成スル各材ノ長ハ船ノ首尾兩端ニ用ウルモノヲ除クノ

外三十呎以上ナルヲ要ス

前項ノ長ヨリ短キ材ヲ内龍骨ニ使用スルトキハ其ノ上面ニ副内龍骨ヲ附スヘシ此ノ場合ニ於ケル内龍骨ノ深ハ第三號表ニ掲クル内龍骨ノ深ノ三分ノ二以上、副内龍骨ノ深ハ其ノ二分ノ一以上ト爲スヘシ

第三條 船ノ長百三十呎ヲ超ユルカ若ハ船ノ長九十呎以上ニシテ深ノ七倍以上ナルトキハ適當ノ側内龍骨ヲ附スヘシ

第四條 内龍骨ノ嵌接ハ平面水平嵌接ト爲シ其ノ長ハ用材ノ深ノ五倍以上其ノ端末ニ於ケル内龍骨ノ深ハ用材ノ深ノ四分ノ一以上ト爲スヘシ内龍骨ノ嵌接ハ龍骨ノ嵌接トハ五呎以上又汽機及ヒ汽罐トハ適當ニ避距スヘシ

第五條 檣ハ直接ニ内龍骨ニ嵌込ムヘカラス

第六條 汽機及ヒ汽罐ノ下部ニ於ケル内龍骨ハ堅材ヲ以テ構成シ且汽罐ノ下部ト内龍骨ノ上部トハ十二吋以上隔離スルカ若ハ適當ノ防熱工事ヲ施スヘシ

第七條 側内厚板ハ肋根材ト第一肋材トノ接合部ニ設クヘシ

第八條 船底彎曲部ニハ船ノ首尾ヲ通シテ彎曲部縱通材ヲ設ケ其ノ各側ニ於ケル總幅ハ船ノ幅ノ六分ノ一以上ト爲シ厚ハ第三號表ニ據ルヘシ但首尾兩端ニ於テハ適當ニ其ノ寸法ヲ減スルコトヲ得

第九條 側内厚板及ヒ彎曲部縱通材ノ嵌接ノ長ハ用材ノ幅ノ三倍以上ト爲スヘシ

第二數八萬以上ノ船舶ニ於テハ彎曲部縱通材ハ五呎以内ノ距離ニ成ルヘク横ニ其ノ一端ヨリ他端ニ貫通スル敲釘ヲ以テ緊著スヘシ

第六章 梁受材、梁受板、副梁受板、梁壓材、副梁壓材、船鍰及ヒ内部腰板

第一條 梁受材及ヒ梁壓材ハ各層梁ニ取附ケ其ノ寸法ハ之ヲ取附クル梁ノ兩端ノ截面ニ等シク且梁トノ接面ニ於ケル幅ハ第四號表ニ掲クル梁ノ幅ヨリ大ナラシムヘシ

第二條 前條ノ規定ニ依リ梁受材ヲ取附ケサルトキハ梁受板ヲ設ケ其ノ寸法ハ第三號表ニ據ルヘシ

第三條 梁受材、梁受板、副梁受板、梁壓材、副梁壓材、船鍰及ヒ内部腰

板ノ嵌接ノ長ハ用材ノ幅ノ三倍以上ト爲シ三箇以上ノ敲釘又ハ打込釘ヲ以テ固著スヘシ

前項ニ掲クル各材ノ嵌接ハ適當ニ避距スヘシ

第四條 重甲板梁、正甲板梁及ヒ艙梁ニハ第三號表ニ掲クル寸法ヲ有スル副梁受板ヲ附スヘシ但第二數一萬五千未満ノ船舶ノ重甲板梁ハ之ヲ附スルヲ要セス

第五條 第二數三萬以上ナルトキハ中央部ニ於テ船ノ長ノ四分ノ三間重甲板梁ニ副梁壓材ヲ設クヘシ

第二數五萬以上ナルトキハ前項ノ副梁壓材ヲ船ノ首尾ヲ通シテ設クヘシ第二數九萬以上ナルトキハ中央部ニ於テ船ノ長ノ四分ノ三間輕甲板梁及ヒ正甲板梁若ハ艙梁ニモ副梁壓材ヲ設クヘシ

第六條 副梁壓材ノ幅ハ第四號表ニ掲クル梁ノ幅以上ト爲シ厚ハ第三號表ニ掲クル木甲板ノ厚ニ等クスヘシ

第七條 船鍰ノ厚ハ第三號表ニ據ルヘシ  
船鍰ヲ貫キテ舷牆柱ヲ設クルトキハ船鍰ハ二材ヲ以テ構成スルニトヲ得

船鏢ノ幅ハ外板及ヒ梁壓材ニ固著スルニ充分ナル幅ト爲スコトヲ要ス  
 第八條 内部腰板ハ正甲板梁又ハ艙梁ノ梁材上ニ設クヘシ  
 内部腰板ノ寸法ハ正甲板梁又ハ艙梁ノ副梁受板ニ等クスヘシ

第七章 梁及ヒ梁ノ配置

第一條 甲板梁及ヒ艙梁ノ寸法ハ第四號表ニ據リ船ノ中央ニ於ケル梁ノ長  
 ヲ以テ之ヲ定ムヘシ但輕甲板梁ハ其ノ截面ヲ表中ノ截面ノ四分ノ三ト爲  
 スコトヲ得

第二條 各層ニ於ケル梁ハ上下相累ネテ設クヘシ

第三條 梁矢ハ上甲板梁ニ於テハ梁ノ長一呎ニ付四分ノ一吋以上、正甲板  
 梁ニ於テハ八分ノ一吋以上ノ割合ト爲スヘシ

第四條 梁ハ漸次其ノ深ヲ減少シテ梁端ニ於テ中央ノ深ノ十分ノ九ト爲ス  
 コトヲ得

第五條 船ノ中央ニ於ケル梁ノ長ノ四分ノ三ヨリ短キ梁ハ其ノ截面ヲ第四  
 號表ニ掲クルモノ、四分ノ三迄減スルコトヲ得

第六條 艙口兩端ノ梁及ヒ帆船ニ於ケル檣ノ前後ノ梁ハ其ノ截面ヲ第四號

表ニ掲クルモノ、一倍八分ノ一ト爲スヘシ

第七條 梁ハ成ルヘク肋骨ノ位置ニ設ケ肋材ニ密接セシメ梁受板上ノ鳩尾  
 形溝ニ嵌込ムヘシ

第八條 甲板梁ノ心距ハ汽船ニ於テハ肋骨ノ心距ノ二倍二分ノ一以下、帆  
 船ニ於テハ肋骨ノ心距ノ二倍以下ト爲スヘシ但四呎ヲ超過スヘカラス

第九條 檣孔及ヒ艙口ニ設クル縱梁ノ截面ハ甲板梁ノ四分ノ三ト爲スヘシ  
 艙口ノ兩側ニ於ケル半梁ノ截面ハ甲板梁ノ四分ノ三ト爲シ其ノ心距ハ前  
 條ノ規定ニ依ルヘシ

第十條 深十四呎以上十六呎未滿ノ船舶ニ於テハ中央部ニ於テ船ノ長ノ二  
 分ノ一間ハ上甲板一本置ニ艙梁ヲ設クヘシ

第十一條 深十六呎以上十九呎未滿ノ船舶ニ於テハ船ノ首尾ヲ通シ上甲板  
 梁一本置ニ艙梁ヲ設クヘシ

第十二條 深十九呎以上二十一呎未滿ノ船舶ニ於テハ船ノ首尾ヲ通シテ上  
 甲板梁一本置ニ二本續キテ艙梁ヲ設クヘシ

第十三條 深二十一呎以上二十五呎未滿ノ船舶ニ於テハ船ノ首尾ヲ通シテ

上甲板梁毎ニ正甲板梁又ハ艙梁ヲ設クヘシ

第十四條 龍骨ノ上面ヨリ最下層梁ノ上面迄ノ深九呎以上ナルトキハ帆船ニ於テハ檣孔梁及ヒ艙口兩端ノ梁又汽船ニ於テハ艙口及ヒ機關室口ノ兩端ノ梁ニハ肋根材ニ二箇ノ敲釘ヲ打ツニ足ルノ長ヲ有スル鐵製ノ特設梁曲材ヲ附スヘシ

第十五條 艙口、汽機室又ハ汽罐室等ノ部分ニ於テ本章ノ規定ニ依リ梁ヲ配置スルコト能ハサルトキハ適當ノ補強構造ヲ爲スヘシ  
揚錨機、斜檣等ヲ支フル梁ハ其ノ寸法ヲ適當ニ増スヘシ

第八章 梁 柱

第一條 梁ノ長、上甲板ノ最長梁ノ二分ノ一ヲ超ユルトキハ梁毎ニ梁柱ヲ取附クヘシ但梁ヲ支フル縱梁アルトキハ梁一本置ニ之ヲ取附クルモ妨ナシ上層梁ニ梁柱ヲ要スルトキハ其ノ下層ノ梁ニモ亦之ヲ設クヘシ

第二條 木製梁柱ノ截面ハ船ノ幅ト深トノ和每一呎ニ付一平方吋ノ割合ト爲スヘシ

鐵製中實梁柱ノ徑ハ船ノ幅ト深トノ和ヨリ二呎ヲ減シタル差每一呎ニ付

十六分ノ一吋ノ割合ト爲スヘシ

甲板間ノ梁柱ノ截面ハ前二項ノ規定ニ依リ算出シタル截面ヨリ其ノ四分ノ一ヲ減スルコトヲ得

鐵製中空梁柱ヲ用ウルトキハ其ノ截面ハ中實梁柱ト同一ノ效力ヲ有スルモノナルヲ要ス

本章第一條第一項ノ規定ニ依リ梁一本置ニ梁柱ヲ取附クルトキハ其ノ截面ハ梁毎ニ取附クルモノノ一倍二分ノ一ト爲スヘシ

第三條 輻二十五呎未満ノ船舶ニ於テ梁ノ截面ヲ第四號表ニ掲クルモノノ一倍四分ノ一以上ト爲シ且其ノ兩端ニ豎梁曲材ヲ附スルトキハ梁柱ヲ設ケサルモ妨ナシ

第四條 甲板室、斜檣、揚錨機及ヒ揚貨機等ヲ支フル梁其ノ他必要ノ箇所ニハ特ニ梁柱ヲ設クヘシ

第九章 船首肘材及ヒ船尾肘材

第一條 艙内ニ於ケル肘材ノ配置ハ船ノ中央ニ於テ龍骨ノ上面ヨリ最下層梁ノ上面迄ノ深ヲ以テ之ヲ定ムヘシ又各層梁受材ノ端末ニハ肘材ヲ設ク

- ヘシ
- 第二條 深九呎未満ノ船舶ニ於テハ船首肘材二箇、船尾船肘材一箇ヲ設クヘシ
- 第三條 深九呎以上十四呎未満ノ船舶ニ於テハ船首肘材三箇、船尾肘材一箇ヲ設クヘシ
- 第四條 深十四呎以上十六呎未満ノ船舶ニ於テハ船首肘材四箇、船尾肘材二箇ヲ設クヘシ
- 第五條 深十六呎以上ノ船舶ニ於テハ三呎以内ノ距離ニ船首肘材ヲ設ケ且二箇以上ノ船尾肘材ヲ設クヘシ
- 第六條 肘材ノ腕ノ長ハ船ノ幅ノ五分ノ一以上トナシ下部ニ用ウルモノハ其ノ部分ニ於ケル内板ニ四十五度ノ角度ヲ以テ交叉セシムヘシ但添材ヲ附スルトキハ腕ノ長ハ船ノ幅ノ八分ノ一迄減スルコトヲ得
- 第七條 木製肘材ノ截面ハ咽喉部ニ於テ第四號表ニ掲クル甲板梁ノ截面ノ四分ノ三ト爲シ腕端ニ至ルニ從ヒ漸次減少シテ其ノ二分ノ一ト爲スコトヲ得

第八條 鐵製肘材ヲ用ウルトキハ幅ハ第五號表ニ掲クル短梁曲材ノ幅ニ二分ノ一時ヲ加ヘタルモノ、厚ハ咽喉部ニ於テハ第五號表ニ掲クル短梁曲材ノ幅ニ等ク、腕ノ各部ニ於テハ第五號表ニ掲クル短梁曲材ノ厚ニ四分ノ一時ヲ加ヘタルモノナルヲ要ス

第十章 梁曲材

- 第一條 鐵製豎梁曲材ノ寸法ハ第五號表ニ據ルヘシ
- 第二條 木製豎梁曲材ノ腕ノ長ハ第五號表ニ掲クル鐵製豎梁曲材ニ等クシ其ノ副ハ之ヲ取附クル梁ノ幅ノ五分ノ三以上ト爲シ其ノ厚ハ咽喉部ニ於テハ幅ノ一倍二分ノ一腕端ニ於テハ幅ニ等クスヘシ
- 第三條 第二數八千四百未満ノ汽船ニ於テハ甲板梁二本置ニ短梁曲材ヲ取附クヘシ
- 第四條 第二數八千四百以上一萬七千未満ノ汽船ニ於テハ交互ニ甲板梁一本置ト二本置トニ短梁曲材ヲ取附クヘシ
- 第五條 第二數一萬七千以上二萬五千未満ノ汽船ニ於テハ甲板梁一本置ニ短梁曲材ヲ取附クヘシ

第六條 第二數二萬五千以上三萬三千未滿ノ汽船ニ於テハ甲板梁一本置ニ二本續キテ短梁曲材ヲ取附クヘシ

第七條 第二數三萬三千以上ノ汽船ニ於テハ甲板梁毎ニ短梁曲材ヲ取附クヘシ但第二數四萬二千以上六萬七千未滿ナルトキハ甲板梁三本置ニ、六萬七千以上十萬未滿ナルトキハ甲板梁二本置ニ又十萬以上ナルトキハ甲板梁一本置ニ短梁曲材ノ代リニ長梁曲材ヲ取附クヘシ

第八條 第二數八千四百未滿ノ帆船ニ於テハ甲板梁一本置ニ短梁曲材ヲ取附クヘシ

第九條 第二數八千四百以上一萬七千未滿ノ帆船ニ於テハ甲板梁一本置ニ二本續キテ短梁曲材ヲ取附クヘシ

第十條 第二數一萬七千以上十二萬未滿ノ帆船ニ於テハ甲板梁毎ニ短梁曲材ヲ取附クヘシ但第二數二萬五千以上四萬二千未滿ナルトキハ甲板梁三本置ニ、四萬二千以上六萬七千未滿ナルトキハ甲板梁二本置ニ、六萬七千以上十二萬未滿ナルトキハ甲板梁一本置ニ短梁曲材ノ代リニ長梁曲材ヲ取附クヘシ

第二數十二萬以上ノ帆船ニ於テハ甲板梁毎ニ長梁曲材ヲ取附クヘシ

第十一條 二層甲板船ノ上甲板梁ニハ長梁曲材ノ代リニ短梁曲材ヲ用ウルモ妨ナシ

第十二條 艙梁ニハ梁毎ニ長梁曲材ヲ取附クヘシ

第十三條 第二數二萬五千以上ノ船舶ニシテ柔材ヲ以テ肋骨ヲ構成スルトキハ特設梁曲材ヲ艙梁毎ニ取附ケ其ノ梁腕ハ第五號表ニ掲クル長梁曲材ノ梁腕ノ長ニ等キ長ヲ有シ側腕ハ肋根材ニ二箇ノ敲釘ヲ以テ固着スルニ足ルヘキ長ヲ有スルモノナルヲ要ス

特設梁曲材ノ厚及ヒ幅ハ第五號表ニ掲クル長梁曲材ニ準スヘシ

第十四條 前條ノ特設梁曲材ヲ用井サルトキハ梁ト梁トノ間ニ於ケル肋骨ニ鐵帶ヲ取附ケ上部ハ梁受材ニ緊著スヘシ

鐵帶ノ長及ヒ幅ハ特設梁曲材ノ側腕ニ等クシ厚ハ第五號表ニ掲クル長梁曲材ノ咽喉釘部ニ於ケル厚ノ二分ノ一以上ト爲スヘシ

第十五條 木製又ハ鐵製ノ梁曲材ヲ用ウル代リニ鐵製肘板及ヒ山形材ヲ用ウルトキハ其ノ寸法ハ第五號表ニ據ルヘシ但梁腕及ヒ側腕ニ於ケル山形



材ノ長ハ梁曲材ニ等シクスヘシ

第十六條 肋骨間ニ於テ豎梁曲材ヲ固著スル時ハ該部ニ填材ヲ挿入スヘシ

第十七條 橫梁曲材ノ厚及ヒ幅ハ第五號表ニ掲クル短梁曲材ノ四分ノ三以上ト爲スヘシ

第十一章 外板及ヒ内張板

第一條 外板及ヒ内張板ノ寸法ハ第三號表ニ據ルヘシ但船ノ首尾兩端ニ於テ船ノ長ノ四分ノ一間ハ車軸覆板ノ附近ニ於ケル外板ヲ除キ漸次其ノ厚ヲ減シ首尾ニ至リテ十分ノ八ト爲スコトヲ得

第二條 外板ノ橫縁ノ避距ハ上下ニ隣接スルトキハ肋骨ノ心距ノ三倍以上、外板一條ヲ隔テタルトキハ肋骨ノ心距ノ二倍以上、二條ヲ隔テタルトキハ肋骨ノ心距以上ト爲スヘシ

外板ノ橫縁ハ三條ヲ隔ツルニアラサレハ同一ノ肋骨上ニ置クヘカラス前二項ノ規定ハ船ノ首尾兩端ニ於テハ之ヲ適用セサルモ妨ナシ

第三條 外板及ヒ内張板ノ長ハ船ノ首尾兩端ニ用ウルモノヲ除クノ外十八呎以上ナルヲ要ス

第四條 外板及ヒ内張板ノ幅ハ十二吋ヲ超ユヘカラス

第五條 兩舷ニ於ケル龍骨翼板ノ橫縁ノ避距ハ肋骨ノ心距ノ三倍以上ト爲スヘシ

龍骨翼板ノ橫縁ハ嵌接ト爲シ其ノ長ハ幅ノ三倍以上ト爲スシ

第六條 外部腰板ハ水線ノ上下ニ取附ケ其ノ厚ハ第三號表ニ據リ總幅ハ左表ニ據ルヘシ

船ノ長ト深トノ割合	外部腰板ノ總幅ト船ノ深トノ割合	
六倍	未滿	百分ノ二十五
六倍以上	八倍未滿	百分ノ三十
八倍以上	十倍未滿	百分ノ三十五
十倍以上	十二倍未滿	百分ノ四十

第七條 舷側厚板ノ橫縁ハ嵌接ト爲シ其ノ長ハ幅ノ三倍以上ト爲スヘシ

第十二章 甲板

第一條 重甲板船ノ重甲板ニ張ル木甲板ノ厚ハ第三號表ニ據ルヘシ其ノ正  
 甲板ニ張ル木甲板ノ厚ハ之ヨリ二分ノ一時ヲ減スルコトヲ得  
 輕甲板船ノ正甲板ニ張ル木甲板ノ厚ハ第三號表ニ據ルヘシ其ノ輕甲板ニ  
 張ル木甲板ノ厚ハ之ヨリ二分ノ一時ヲ減スルコトヲ得

第二條 上甲板及ヒ正甲板ハ總テ水密ト爲スヘシ

第三條 木甲板ノ幅ハ十吋ヨリ大ナルヘカラス又其ノ端末ニ於ケル幅ハ填  
 絮ヲ施スニ充分ナルヲ要ス

第四條 隣接スル木甲板ノ横線ノ避距ハ梁ノ心距ノ二倍以上ト爲スヘシ又  
 木甲板三條ヲ隔ツルニアラサレハ同一梁上ニ横線ヲ置クヘカラス

第五條 木甲板ノ長ハ船ノ首尾兩端及ヒ艙口ノ間ヲ除クノ外二十呎以上ト  
 爲スヘシ

第六條 揚錨機、揚貨機、繫船器等ノ下部ニ於ケル甲板ハ適當ノ補強構造  
 ヲ爲スヘシ

第十三章 過當比例ノ船舶

第一條 過當比例ノ船舶トハ長、深ノ八倍ヲ超ユルカ又ハ長、幅ノ五倍ヲ

超ユルモノヲ謂フ

第二條 過當比例ノ船舶ニハ其ノ長ト深及ヒ幅トノ割合ニ依リ左表ノ規定  
 ニ從ヒ上部ニ於テ梁壓材及ヒ舷側厚板ノ截面ヲ増シ下部ニ於テハ内龍骨  
 ノ截面ヲ増スカ若ハ副内龍骨又ハ側内龍骨ヲ増設スヘシ

過當比例	梁壓材ノ增加 スヘキ截面トノ割合	舷側厚板ノ增加 スヘキ截面トノ割合	副内龍骨又ハ側内龍骨ノ增加 スヘキ截面トノ割合	内龍骨ノ增加 スヘキ截面トノ割合
長、深ノ八倍以上九倍未満 若ハ幅ノ五倍以上六倍未満	六分ノ一	六分ノ一	四分ノ一	四分ノ一
長、深ノ九倍以上十倍未満 若ハ幅ノ六倍以上七倍未満	四分ノ一	四分ノ一	三分ノ一	三分ノ一
長、深ノ十倍以上十一倍未満 若ハ幅ノ七倍以上八倍未満	三分ノ一	三分ノ一	二分ノ一	二分ノ一

第三條 第二數二萬五千以上ノ過當比例ノ船舶ニ於テハ船ノ首尾ヲ通シテ  
 左表ニ掲クル鐵製斜帶板ヲ肋骨ノ外面ニ取附クヘシ

第 二 數	斜帶板ノ寸法
二萬五千以上四萬二千未満	三吋 十六分ノ六吋
四萬二千以上五萬八千未満	三吋半 十六分ノ七吋

五萬八千以上七萬五千未滿	四	時	十六分ノ八時
七萬五千以上十萬未滿	四	時	十六分ノ十時
十萬以上十二萬五千未滿	四	時半	十六分ノ十一時
十二萬五千以上十六萬七千未滿	五	時	十六分ノ十二時

第四條 斜帶板ハ船鏢ノ下部ヨリ肋根材長肢ノ頭部又ハ半肋根材ノ頭部ト

第一肋材ノ頭部トノ中間迄達セシムヘシ

第五條 斜帶板ハ肋骨ニ四十五度ノ角度ニ取附ケ其ノ心距ハ船ノ長、深ノ八倍以上九倍未滿若ハ幅ノ五倍以上六倍未滿ナルトキハ八呎以下、又船ノ長、深ノ九倍以上十倍未滿若ハ幅ノ六倍以上七倍未滿ナルトキハ七呎以下、又船ノ長、深ノ十倍以上十一倍未滿若ハ幅ノ七倍以上八倍未滿ナルトキハ六呎以下ト爲スヘシ

第六條 斜帶板ハ船首ニ於テハ頭部ヲ後方ニ向ハシメ船尾ニ於テハ之ヲ前方ニ向ハシムル様配置シ中央部ニ於テ三本以上相交又セシムヘシ

第十四章 甲板室、船首樓、船橋樓、船尾樓、低船首

樓及ヒ低船尾樓

第一條 輕甲板上ノ甲板室ハ其ノ高七呎ヲ超ユヘカラス又船ノ首尾ニ於テ船ノ長ノ五分ノ一間ニハ之ヲ設クヘカラス

第二條 船首樓、船橋樓、船尾樓、低船首樓、低船尾樓等ノ合長ハ船ノ長ノ五分ノ三ヲ超ユヘカラス

船首樓、船橋樓及ヒ船尾樓ノ各材ノ截面ハ重甲板以下ノ各材ノ截面ノ四分ノ三以上ト爲スヘシ

船首樓、船橋樓又ハ船尾樓ヲ設クルトキハ重甲板ニ於ケル肋骨間ノ空隙ハ船鏢ヲ以テ閉塞シ之ヲ水密ト爲スヘシ

第三條 低船首樓及ヒ低船尾樓ノ外板其ノ他ノ諸材ノ寸法ハ重甲板以下ニ要スルモノニ等シク又梁、船首肘材及ヒ船尾肘材ノ配置ハ龍骨ノ上面ヨリ低船首樓又ハ低船尾樓ノ甲板梁ノ上面迄ノ深ヲ第七章及ヒ第九章ノ深ニ充テ之ヲ定ムヘシ

低船首樓甲板又ハ低船尾樓甲板及ヒ重甲板ノ梁壓材竝ニ梁受材又ハ梁受板ハ肋骨ノ心距ノ五倍以上相累ヌヘシ

低船首樓又ハ低船尾樓ヲ設クル船舶ニ於テハ上甲板ノ高ニ於テ船ノ首尾ヲ通シテ舷側厚板ヲ設クヘシ

第十五章 艙口、機關室口、載貨門及ヒ其ノ他ノ諸口

第一條 長十呎以上ノ艙口兩端ノ梁及ヒ帆船ニ於ケル檣ノ前後ノ梁ハ第十章第十七條ニ規定スル橫梁曲材ヲ以テ船側ニ固著スヘシ

第二條 上甲板及ヒ正甲板ノ艙口ノ長八呎以上ナルトキハ其ノ中央ニ取外シ得ヘキ堅牢ノ梁ヲ設ケ其ノ長十呎以上ナルトキハ縱梁ノ兩端ハ第十章第十七條ニ規定スル橫梁曲材ヲ以テ甲板梁ニ固著スヘシ又其ノ長十五呎以上ナルトキハ適當ノ補強構造ヲ爲スヘシ

第三條 上甲板ニ設クル艙口、機關室口、載貨口、出入口、天窗、通風器等ノ諸口及ヒ甲板口ヲ蔽圍スル甲板室ノ縁材ハ其高甲板上面ヨリ第一級船ニ於テハ十二吋以上、第二級船ニ於テハ九吋以上、第三級船ニ於テハ六吋以上トナスヘシ但直接波浪ヲ受ケサル場所ニ於テハ検査官吏ノ見込ニ依リ縁材ノ高ヲ減スルコトヲ得  
艙口ニハ堅牢ナル蓋板及ヒ縦材又ハ仕切梁等ヲ備ヘ且暴露甲板ノ艙口ニ

在リテハ之ヲ堅固ニ密閉シ得ヘキ覆布及ヒ適當ノ締具ヲ備フヘシ

暴露甲板ノ載貨口、出入口、天窗、通風器等ノ諸口ニハ覆蓋又ハ蓋板及ヒ覆布竝ニ適當ノ締具ヲ備フルカ其ノ他水密トナルヘキ裝置ヲ爲スヘシ但検査官吏ニ於テ水密ト爲スヘキ必要ナシト認ムルトキハ此限ニ在ラス

第四條 帆船ニ於テハ上甲板及ヒ檣ヲ楔止メト爲ス甲板ニ於ケル檣ノ前後ノ梁間ハ縱梁、填材及ヒ橫曲材ヲ以テ固メ且其ノ上面ニ第三號表ニ掲クル甲板ノ厚ノ一倍三分ノ一ノ厚ト檣徑ノ二倍ヨリ少カラサル幅トヲ有スル檣孔板ヲ設クヘシ

第五條 汽機室口及ヒ汽罐室口ハ成ルヘク小サク之ヲ造リ其ノ周圍ニハ縁材ヲ取附ケ甲板間ニ圍壁ヲ設クヘシ

第六條 上甲板ニ設クル汽機室口及ヒ汽罐室口ニハ甲板上面ヨリ第二級船ニ於テハ二呎以上、第一級船ニ於テハ二呎六吋以上ノ高ヲ有スル圍壁ヲ取附ケ汽機室口ノ上端ニ天窗ヲ設クヘシ  
機關室圍壁ノ頂部ニ設クル天窗ハ堅牢ニ縁材ニ固着シ適當ノ覆蓋ヲ備フヘシ

汽罐室圍壁ノ頂部ニ開口ヲ設クルトキハ蝶番ヲ以テ固着シタル鋼製ノ蓋板ヲ備フヘシ

第七條 一層甲板船ノ甲板及ヒ二層甲板船ノ正甲板ニ於ケル汽機室口及ヒ汽罐室口ノ兩側ハ堅材ノ木甲板ヲ張詰メ且橫梁曲材ヲ以テ半梁ノ兩端ヲ固著スヘシ

第八條 機關室口ノ兩端及ヒ中央ニハ第四號表ニ掲クル梁ノ截面ヨリ三分ノ二増シタル截面ヲ有スル堅材ノ特設梁ヲ設ケ其ノ兩端ハ堅梁曲材一本及ヒ橫梁曲材二本ヲ以テ船側ニ固著スヘシ但汽機室ト汽罐室ト隔離スルトキハ各室ノ兩端ニ特設梁ヲ設クヘシ

特設梁ノ間ニハ堅材ノ縱梁ヲ設ケ橫梁曲材ヲ以テ特設梁ニ固著スヘシ  
第九條 船側ニ載貨門又ハ載炭門其ノ他大ナル口ヲ設クルトキハ其ノ周圍ニハ適當ノ補強構造ヲ爲シ其ノ戸ハ堅牢ニ作り適當ノ締具ヲ備ヘ閉鎖シタルトキハ水密ト爲ルヘキ構造ト爲スヘシ

第十條 載貨門及ヒ載炭門ハ舷側厚板、梁受材、梁受板、副梁受板及ヒ内部腰板ヲ切缺キテ設クヘカラス但特ニ相當ノ補強構造ヲ爲シタルトキハ

此ノ限ニ在ラス

第十一條 滿載吃水線ノ標示ヲ附スル船舶ノ舷窓ニシテ海水中ニ於ケル最高滿載吃水線ヨリ六吋未滿ノ箇所ニ下緣ヲ有スルモノハ舷窓試驗規程ニ適合スル甲種舷窓又ハ同等以上ノモノナルコトヲ要ス

第十六章 固著法及固著釘

第一條 總テ重要ナル部分ニ用ウル固著釘ノ徑ハ第六號表ニ據ルヘシ但用材ノ寸法第二號表乃至第五號表ニ掲クルモノヨリ大ナルトキハ其ノ部分ニ用ウル固著釘ハ適當ニ釘徑ヲ増スヘシ

敲釘ヲ打込ムヘキ釘孔ノ徑ハ釘徑ヨリ十六分ノ一吋以上小ナルコトヲ要ス

第二條 敲釘ハ總テ同金屬ノ座金ノ上ニテ敲著スヘシ

第三條 板ヲ肋骨又ハ梁ニ固著スヘキ打込釘ノ長ハ貫通スル板ノ厚ノ二倍以上ト爲シ又其ノ徑ハ其ノ部分ニ用ウル敲釘ノ徑ヨリ十六分ノ二釘減シタルモノヨリ少カルヘカラス又角釘ヲ用ウルトキハ其ノ邊ハ圓釘ノ徑ノ十八分ノ九以上ト爲スヘシ

第四條 木釘ヲ用ウルトキハ其ノ兩端ハ之ヲ切開シテ楔止メヲ爲スカ又ハ填絮ヲ用井テ水密ト爲スヘシ

第五條 力材又ハ内龍骨ト船首材、船尾材又ハ龍骨トヲ貫通スル敲釘ノ心距ハ十八吋以內ト爲スヘシ但内龍骨力材ノ上部ニ達スルトキハ敲釘ハ内龍骨ヲ貫通スルヲ要ス

第六條 肋骨ハ打込釘ヲ以テ龍骨ニ固著スヘシ

第七條 龍骨及ヒ内龍骨ハ肋骨毎ニ敲釘ヲ以テ肋骨ヲ貫通シテ緊著スヘシ

第八條 側内龍骨ハ肋骨毎ニ敲釘ヲ以テ肋骨ヲ貫通シテ緊著スヘシ

第九條 側内厚板ハ肋骨一本置ニ敲釘ヲ以テ肋骨ヲ貫通シテ緊著シ其ノ他ノ肋骨ニハ打込釘ヲ以テ固著スヘシ

第十條 彎曲部縦通材ハ其ノ各材ノ幅八吋未滿ナルトキハ肋骨一本置ニ敲釘及ヒ打込釘ヲ以テ、其ノ他ノ肋骨ニハ打込釘二箇ヲ以テ固著スヘシ但其ノ幅八吋以上ナルトキハ適當ニ敲釘ノ數ヲ増スヘシ

第十一條 上甲板梁受材及ヒ梁受板ハ肋骨毎ニ敲釘及ヒ打込釘ヲ以テ固著スヘシ但敲釘ハ外板迄貫通セシムルコトヲ要ス

正甲板若ハ艙梁ノ梁受材及ヒ梁受板ハ肋骨一本置ニ敲釘二箇ヲ以テ、其ノ他ノ肋骨ニハ敲釘及ヒ打込釘ヲ以テ固著スヘシ

各層梁ノ副梁受板ノ固著法ハ總テ上甲板梁受材若ハ梁受板ニ等クスヘシ  
第十二條 梁壓材ハ肋骨毎ニ梁壓材肋骨及ヒ外板ヲ貫通スル敲釘ヲ以テ緊著スヘシ但正甲板若ハ艙梁ノ梁壓材ノ敲釘ハ外板ヲ貫通セサルモ妨ナシ

第十三條 副梁壓材ハ梁毎ニ敲釘ヲ以テ緊著スヘシ

第十四條 船鏢ハ肋骨ノ間ニ於テ交互ニ敲釘ト打込釘トヲ以テ舷側厚板ニ固著スヘシ

船鏢ハ梁ノ中間ニ於テ打込釘ヲ以テ梁壓材ニ固著スヘシ

船鏢ヲ貫キテ舷牆柱ヲ設クルトキハ船鏢ハ舷牆柱毎ニ敲釘ヲ以テ固著スヘシ又船鏢ヲ二材合セト爲ストキハ尙舷牆柱ノ間ニ於テモ敲釘ヲ以テ緊著スヘシ

第十五條 内部腰板ノ固著法ハ上甲板梁受材ニ等クスヘシ

第十六條 梁ハ其ノ兩端ニ於テ船鏢、梁壓材及ヒ梁受材若ハ梁受板ヲ貫通スル敲釘ヲ以テ緊著スヘシ但第二級船ニシテ第二數二萬五千未滿ナルト

キハ敲釘ノ代リニ打込釘ヲ用ウルモ妨ナシ

第十七條 鐵製ノ船首肘材及ヒ船尾肘材ハ其ノ咽喉部ヲ船首材又ハ船尾材ニ、其ノ腕ヲ肋骨毎ニ敲釘ヲ以テ緊著スヘシ

第十八條 梁曲材ニ用ウル敲釘ノ心距ハ十二吋ヲ超ユヘカラス又各腕ニ於ケル固著釘ノ數ハ咽喉部釘ノ外二箇以上ナルヲ要ス

第十九條 柔材ヲ以テ肋骨ヲ構成スル船舶ニ於テハ梁曲材及ヒ肘材ニ用ウル敲釘ハ總テ外板迄貫通セシムルヲ要ス

第二十條 外板ノ横縁ノ兩側ニ於テハ二箇ノ釘ヲ以テ外板ヲ肋骨ニ固著スヘシ但其ノ一ハ敲釘ナルヲ要ス

横縁ニ隣接スル肋骨ニ敲釘ヲ以テ外板ヲ固著スルトキハ横縁ノ兩側ニハ打込釘ヲ用ウルモ妨ナシ

第二十一條 外板ハ其ノ幅八吋未滿ナルトキハ肋骨毎ニ二箇、幅八吋以上十吋未滿ナルトキハ肋骨毎ニ三箇、幅十吋以上ナルトキハ肋骨毎ニ四箇ノ釘ヲ以テ固著スヘシ但外板ノ幅十吋以上ナルトキト雖モ單材ヲ以テ肋骨ヲ構成スル船舶ニ於テハ肋骨毎ニ三箇ヲ用ウルモ妨ナシ

前項ノ固著釘ハ肋骨一本置ニ一箇以上ノ敲釘又ハ木釘ナルヲ要ス

第二十二條 龍骨翼板ハ前條ノ規定ノ外肋骨一本置ニ敲釘ヲ以テ緊著スヘシ

龍骨翼板ハ其ノ厚五吋以上ナルトキハ中央部ニ於テ船ノ長ノ五分ノ三間ハ肋骨ノ間ニ於テ六呎以内ノ心距ニ敲釘ヲ以テ龍骨ニ緊著スヘシ

第二十三條 舷側厚板ハ本章第二十一條ノ規定ノ外敲釘ヲ以テ肋骨一本置ニ肋骨及ヒ梁受材、梁受板又ハ梁壓材ヲ貫通シテ緊著スヘシ

第二十四條 木甲板ハ幅六吋以下ナルトキハ一箇以上、幅六吋ヲ超ユルトキハ二箇以上ノ打込釘ヲ以テ梁毎ニ固著スヘシ

第二十五條 斜帶板ハ肋骨毎ニ敲釘ヲ以テ固著スヘシ

第十七章 通風路及滄水路

第一條 各甲板ノ直下及ヒ其ノ梁受材若ハ梁受板又ハ副梁受板ノ下部ニハ船ノ首尾ヲ通シテ適當ノ通風路ヲ設クヘシ

船ノ首尾兩端ニ於ケル滄内ニ於テハ前項通風路ノ外梁受材若ハ梁受板ト内龍骨トノ間ニ通風路ヲ設クヘシ

第二條 肋骨ノ下面ニハ龍骨ノ兩側ニ於テ船ノ首尾ヲ通シテ適當ノ淦水路ヲ設クヘシ但外板ノ縱縁上ニ設クヘカラス

第十八章 舵

第一條 舵心材ハ一材ニテ作り其ノ寸法ハ第三號表ニ據ルヘシ但第二級船ニ於テハ其ノ截面ヲ同表ニ掲クルモノヨリ四分ノ一以内減スルコトヲ得

第二條 蝶番ノ數及ヒ舵針ノ寸法ハ第三號表ニ據ルヘシ但下端ノ舵架ハ蝶番ノ數ニ加算スルモノトス

第二級船ニ於テハ舵針ノ截面ヲ第三號表ニ掲クルモノヨリ四分ノ一以内減スルコトヲ得

第三條 舵ノ壺金ハ厚ハ舵針ノ徑ノ二分ノ一ヨリ、深ハ舵針ノ徑ノ一倍四分ノ一ヨリ少カルヘカラス

第四條 輕甲板船ニ於テハ舵心材及ヒ舵針ノ徑ヲ重甲板船ニ要スルモノニ等クスヘシ

第五條 舵心材ハ力材ニ用ウルモノニ等キ敲釘ヲ以テ矧材ニ固著シ其ノ心距ハ十八吋ヲ超ユヘカラス

第六條 銅又ハ黃銅ノ船底包板ヲ有スル船舶ノ蝶番及ヒ舵針ハ吃水線以下ニ於テハ黃銅製ナルヲ要ス

第十九章 填絮及ヒ船底包板

第一條 接合ヲ水密ト爲スヘキ部分ニハ填絮ヲ施スヘシ

第二條 填絮ヲ施シタル部分ハ唧筒ヲ以テ水ヲ注射スル水密試驗ニ堪フルコトヲ要ス

第三條 船底ニハ滿載吃水線上少クモ一呎ノ所迄銅、黃銅若ハ木ノ船底包板ヲ張詰ムヘシ但適當ノ防腐劑ヲ塗抹スルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十章 檣、帆架及ヒ斜檣

第一條 檣、帆架、斜檣等ノ寸法ハ左表ニ據ルヘシ  
但汽船ニ於テハ適當ニ之ヲ斟酌スルコトヲ得

名	稱	材料	徑
「シツプ」、「バーク」及ヒ「ブリック」ノ前檣、正檣、前上檣及ヒ正上檣並「シツプ」ノ後上檣		杉	三呎ニ付一時
頂檣、「シツプ」及ヒ「バーク」ノ後檣、「バーク」ノ後上檣並「バーク」ノ後上檣並「バーク」ノ後上檣並「バーク」ノ後上檣		杉	四呎ニ付一時
「バーケンタイン」、「ブリガンタイン」、「トツプスルスク」、「ナー」及ヒ「スクーナー」ノ檣		杉	四呎ニ付一時



「ヤード」、「ブーム」、「ジツブーム」及ヒ「フライイング」、「ジツブーム」	杉 四 呎ニ付 一 吋
斜 檣	杉 七 呎ニ付 四 吋

第二條 下橋ノ上端ノ徑ハ上橋ノ下端ノ橋ヨリ小ナルヘカラス  
 第三條 一材橋ノ寸法ヲ定ムルニハ内龍骨ノ上面ヨリ下橋索具ヲ取附クル處迄ヲ下橋ノ長ト爲シ第一條ノ規定ニ依ルヘシ

第二十一章 機關室

第一條 機關室ノ前後ニハ隔壁ヲ設ケ上甲板下噸數三百五十噸以上ノ船舶ニ於テハ隔壁及ヒ石炭庫ノ圍壁ヲ鋼製ト爲ヌヘシ  
 前項ノ圍壁ハ正甲板ニ止ムルモ妨ナシ

第二條 機關室ノ甲板間ニ於ケル部分ノ周圍ニハ圍壁ヲ設ケ之ヲ暴露甲板迄達セシムヘシ

第三條 隔壁、圍壁其ノ他船體ノ部分カ木製ニシテ發動機又ハ汽罐ニ接近シ燃燒ノ虞アルトキハ之ニ金屬板ヲ張ルカ其ノ他ノ方法ニ依リ燃燒ヲ豫防シ且汽罐ニ接近スル場合ニハ防熱ノ爲メ金屬板ノ下ニ石綿又ハ毛紙ヲ

敷クカ又ハ適當ノ間隔ヲ置クヘシ

電氣發動機船ノ蓄電池室ニハ通風ノ裝置ヲ爲シ其床ハ鉛板ヲ以テ之ヲ覆フヘシ

第四條 上甲板下噸數五百噸以上ノ船舶ニ於テハ機關室ヨリ船尾管ニ通行シ得ヘキ車軸隧道ヲ設クヘシ但甲板ヨリ各軸受及ヒ船尾管ニ達シ得ヘキ昇降路ヲ設クルトキハ車軸隧道ハ通行シ得ヘカラサルモ妨ナシ

第二十二章 排水裝置及諸管

第一條 手用滄水唧筒及ヒ測水管ハ各艙ニ之ヲ設クヘシ但上甲板下ノ噸數三百五十噸未滿ノ船舶ニシテ各艙ニ設クルノ必要ナキトキハ各艙ヲ通シテ一箇ノ手用滄水唧筒ヲ設クルモ妨ナシ又平水航路ノ船舶ニ限リ検査官吏ニ於テ必要ナシト認ムルトキハ手用滄水唧筒及測水管ハ之ヲ設ケサルコトヲ得

手用滄水唧筒ハ滿載吃水線以上ノ甲板ニ於テ使用シ得ヘキ樣裝置スヘシ  
 第二條 正滄水唧筒ヲ備フル船舶ニ於テハ機關室ヨリ各滄ニ正滄水唧筒ノ吸水管ヲ通シ其ノ滄水ヲ排除シ得ヘキ裝置ヲ爲スヘシ但上甲板下噸數三

百五十噸未満ノ船舶ニシテ該吸水管ヲ各艙ニ通スルノ必要ナキトキハ此ノ限ニ在ラス

第三條 滄水吸水管ノ端末ニハ芥除ヲ設クヘシ

第四條 上甲板ニハ適當ノ間隔ニ排水孔ヲ設ケ之ヲ滄水道ニ導クヘシ若之ヲ舷外ニ通スルトキハ管口ニ適當ノ支水瓣若ハ螺旋蓋ヲ設クヘシ

第五條 艙内又ハ石炭庫ヲ通過スル諸管ニハ貨物又ハ石炭ノ積載等ニ依リ破損セサル様堅固ナル覆箱又ハ覆板ヲ設クヘシ又汽管其他内部ヨリ高壓力ヲ受クル諸管ハ艙内又ハ石炭庫ヲ通過セシムヘカラス但検査官吏ニ於テ適當ト認ムル圍壁又ハ隧道ヲ設クルトキハ此ノ限ニ在ラス

別表第一號表 材料

	甲	乙	丙	丁
龍骨、副龍骨、船首材、副船首材	樫、樺	檜、樺、栗、樟、タブ	椎、桂、鹽地、セン、松	—
船尾材、舵柱、船尾管胴材、舵心材	樫、樺	—	—	—
肋骨、船尾橫翼材、船尾縱翼材	樺、樟	檜、樺、栗、タブ	椎、桂、鹽地、セン、松	—

力	材	樫、樺、樟	檜、樺、栗、タブ	椎、桂、鹽地、セン、松	—
内龍骨、側内龍骨、副内龍骨	樫、樺	檜、樺、栗、タブ	椎、桂、鹽地、セン、松	—	
側内厚板、彎曲部縱通材	樺	檜、樺、松、桂、鹽地	姫子松、赤身杉	杉、蝦夷松	
梁壓材、船鏢、内部腰板	樫、樺	檜、松、檜、桂、鹽地、タブ	姫子松、赤身杉、桂	—	
梁受材、梁受板、副梁受板	樺	檜、松、檜、桂、鹽地、タブ	姫子松、赤身杉	杉、蝦夷松	
船首尾肘材、梁齒材、根齒材	樺、樟	檜、樺、松、栗、タブ	椎、桂、鹽地、セン	—	
外板、外部腰板	樺、檜	松、赤身杉	姫子松、杉、桂	蝦夷松	
舷側厚板、龍骨翼板	樺	檜、松	姫子松、赤身杉、桂	杉	
梁、縱梁	樺	檜、樺、檜、松、タブ、鹽地	姫子松、赤身杉	杉、蝦夷松	
木甲板、副梁壓材	樺	檜、松	姫子松、赤身杉、桂	杉、蝦夷松	
甲板口ノ縁材	樫、樺	檜、樺、松、栗、タブ、鹽地	椎、桂、セン、赤身杉	杉	
敲釘、打込釘	黃銅、銅	亞鉛鍍鐵	鐵	—	
木釘、木栓	樫、樺	檜	—	—	

舵針、舵蝶番	船底板	船底包板	檣孔板	檣、帆架、斜檣
黃銅	銅	銅	檣	檣、檣、檣
鐵	黃銅	黃銅	檣、松、檣、タア	松、杉
—	木	—	椎、桂、鹽地、セン	—
—	—	—	—	—

材 料	心 肋 距	合 材 二		
		材 根 肋	材 部 曲 彎	材 頂
第 一 數		樺	樺	樺
以上 未滿	吋	角 吋	角 吋	角 吋
13 — 14	13	$3\frac{1}{2}$	3	$2\frac{1}{2}$
14 — 15	13	$3\frac{3}{4}$	$3\frac{1}{4}$	$2\frac{3}{4}$
15 — 16	14	4	$3\frac{1}{2}$	3
16 — 17	14	$4\frac{1}{4}$	$3\frac{3}{4}$	$3\frac{1}{4}$
17 — 18	15	$4\frac{1}{2}$	4	$3\frac{1}{4}$
18 — 19	15	$4\frac{3}{4}$	$4\frac{1}{4}$	$3\frac{1}{2}$
19 — 20	16	5	$4\frac{1}{2}$	$3\frac{1}{2}$
20 — 21	16	$5\frac{1}{4}$	$4\frac{3}{4}$	$3\frac{3}{4}$
21 — 22	17	$5\frac{1}{2}$	5	$3\frac{3}{4}$
22 — 23	17	$5\frac{3}{4}$	$5\frac{1}{4}$	4
23 — 24	18	6	$5\frac{1}{2}$	4
24 — 25	18	$6\frac{1}{4}$	$5\frac{1}{2}$	$4\frac{1}{4}$
25 — 26	19	$6\frac{1}{2}$	$5\frac{3}{4}$	$4\frac{1}{4}$
26 — 27	19	$6\frac{3}{4}$	$5\frac{3}{4}$	$4\frac{1}{2}$
27 — 28	20	7	6	$4\frac{1}{2}$
28 — 29	21	$7\frac{1}{4}$	$6\frac{1}{4}$	$4\frac{3}{4}$
29 — 30	22	$7\frac{3}{4}$	$6\frac{1}{2}$	$4\frac{3}{4}$
30 — 31	23	8	$6\frac{3}{4}$	$4\frac{3}{4}$
31 — 32	24	$8\frac{1}{2}$	7	5
32 — 33	24	$8\frac{3}{4}$	7	5
33 — 34	25	9	$7\frac{1}{4}$	5
34 — 35	25	$9\frac{1}{4}$	$7\frac{1}{4}$	$5\frac{1}{4}$
35 — 36	26	$9\frac{1}{2}$	$7\frac{1}{2}$	$5\frac{1}{4}$
36 — 37	26	$9\frac{3}{4}$	$7\frac{1}{2}$	$5\frac{1}{4}$
37 — 38	27	10	$7\frac{3}{4}$	$5\frac{1}{2}$
38 — 39	27	$10\frac{1}{4}$	$7\frac{3}{4}$	$5\frac{1}{2}$
39 — 40	28	$10\frac{1}{2}$	$8\frac{1}{4}$	$5\frac{3}{4}$
40 — 41	28	$10\frac{3}{4}$	$8\frac{1}{4}$	$5\frac{3}{4}$
41 — 42	29	11	$8\frac{1}{2}$	$5\frac{3}{4}$
42 — 43	29	$11\frac{1}{4}$	$8\frac{1}{2}$	6
43 — 44	30	$11\frac{1}{2}$	$8\frac{3}{4}$	6

材 單			材 料
材 根 肋	材 部 曲 彎	材 頂	
樺	樺	樺	第 一 數
角 吋	角 吋	角 吋	以上 未滿
$4\frac{1}{4}$	$3\frac{3}{4}$	$3\frac{1}{4}$	13 — 14
$4\frac{1}{2}$	4	$3\frac{1}{2}$	14 — 15
$4\frac{3}{4}$	$4\frac{1}{4}$	$3\frac{3}{4}$	15 — 16
5	$4\frac{1}{2}$	4	16 — 17
$5\frac{1}{2}$	5	$4\frac{1}{4}$	17 — 18
$5\frac{3}{4}$	$5\frac{1}{4}$	$4\frac{1}{2}$	18 — 19
6	$5\frac{1}{2}$	$4\frac{3}{4}$	19 — 20
$6\frac{1}{2}$	6	5	20 — 21
$6\frac{3}{4}$	$6\frac{1}{4}$	$5\frac{1}{4}$	21 — 22
7	$6\frac{1}{2}$	$5\frac{1}{2}$	22 — 23
$7\frac{1}{4}$	$6\frac{1}{2}$	$5\frac{1}{2}$	23 — 24
$7\frac{3}{4}$	7	$5\frac{3}{4}$	24 — 25
8	7	6	25 — 26
$8\frac{1}{4}$	$7\frac{1}{4}$	$6\frac{1}{4}$	26 — 27
$8\frac{1}{2}$	$7\frac{1}{2}$	$6\frac{1}{2}$	27 — 28
9	$7\frac{3}{4}$	$6\frac{3}{4}$	28 — 29
$9\frac{1}{2}$	8	7	29 — 30
$9\frac{3}{4}$	$8\frac{1}{4}$	7	30 — 31
$10\frac{1}{4}$	$8\frac{1}{2}$	$7\frac{1}{4}$	31 — 32
$10\frac{3}{4}$	9	$7\frac{1}{2}$	32 — 33
11	$9\frac{1}{4}$	$7\frac{3}{4}$	33 — 34
$11\frac{1}{4}$	$9\frac{1}{2}$	8	34 — 35
$11\frac{1}{2}$	$9\frac{3}{4}$	8	35 — 36
$11\frac{3}{4}$	10	$8\frac{1}{4}$	36 — 37
12	$10\frac{1}{4}$	$8\frac{1}{2}$	37 — 38
$12\frac{1}{2}$	$10\frac{3}{4}$	$8\frac{3}{4}$	38 — 39
$12\frac{3}{4}$	$11\frac{1}{4}$	9	39 — 40
13	$11\frac{1}{2}$	$9\frac{1}{4}$	40 — 41
$13\frac{1}{2}$	12	$9\frac{1}{2}$	41 — 42
$13\frac{3}{4}$	$12\frac{1}{2}$	$9\frac{1}{2}$	42 — 43
14	$12\frac{3}{4}$	$9\frac{3}{4}$	43 — 44

表 號  
法寸ノ等針舵ヒ及材心舵、板甲木、板外、板受

材龍骨、船首材、船尾及ヒ舵柱	内龍骨	船尾横翼材	彎曲部縦通材	側内厚板	板上甲板梁受板正甲板副梁受板	正甲板梁受板及ヒ
料材	樺	樺	松	松	樺	樺
數二第	角吋	角吋	吋	吋	吋	吋
以上未着	7	7½	2¼	7×2¼	8×2	7×1¾
3300-5000	7½	8	2½	7½×2½	8½×2	7½×1¾
5000-8400	8	8½	2¾	8×2¾	9×2¼	8×2
8400-12500	8½	9	3	8½×3	9½×2¼	8½×2
12500-16700	9	10	3¼	9×3	9¾×2¼	8¾×2
16700-20800	9½	10½	3½	9½×3½	9¾×2½	8¾×2¼
20800-25000	10	11	3¾	10×3¼	10×3	9×2½
25000-29100	10¼	11¼	4	10¼×3½	10×3	9×2½
29100-33300	10½	11½	4¼	10½×3¾	10¼×3¼	9¼×2½
33300-37500	10¾	11¾	4½	10¾×4	10¼×3¼	9¼×2½
37500-42000	11¼	12¼	4¾	11¼×4¼	10½×3½	9½×2½
42000-50000	11¾	12¾	5	11¾×5	10½×3½	9½×2½
50000-58400	12¼	13¼	5¼	12¼×4¼	10¾×3¾	9¾×2¾
58400-66600	13	14	5½	13×4½	10¾×3¾	9¾×2¾
66600-75000	13½	14½	5¾	13½×4½	10¾×4	9¾×3
75000-83000	14	15	6	14×5	11×4	10×3
83000-99900	14¼	15¼	6¼	14¼×4¼	11×4	10×3¼
99900-116000	14½	15½	6½	14½×4½	11×4¼	10×3¼
116000-133000	14¾	15¾	6¾	14¾×4¾	11×4¼	10×3½
133000-150000	15	16	7	15×5	11×4½	10×3½
150000-167000						

三 第  
梁、板張内、骨龍内、柱舵、材尾船、材首船、骨龍

船	龍骨翼板	外部腰板	舷側厚板	外板	内張板	木甲板	舵心材ノ徑	舵蝶番ノ數	舵針ノ徑	料材
樺	樺	松	樺	松	杉	松	樺	2	吋	料材
吋	吋	吋	吋	吋	吋	吋	吋	吋	吋	數二第
7×2¼	2¼	7×2	1½	1	2	7	2	1.9	以上未着	3300-5000
7½×2½	2½	7½×2	1¾	1¼	2¼	8	2	1.11	5000-8400	
8×2¾	2¾	8×2¼	2	1½	2½	9	3	1.7	8400-12500	
8½×3	3	8½×2¼	2¼	1½	2¾	9½	3	1.8	12500-16700	
9×3¼	3¼	9×2½	2½	1¾	3	10	3	1.9	16700-20800	
9½×3½	3½	9½×2½	2¾	1¾	3½	10½	3	1.10	20800-25000	
10×3¾	3¾	10×2¾	3	2	3¾	11	3	1.11	25000-29100	
10¼×4	4	10¼×3	3¼	2	4	11¼	3	1.12	29100-33300	
10½×4¼	4¼	10½×3¼	3½	2¼	4¼	11½	3	1.13	33300-37500	
10¾×4½	4½	10¾×3½	3¾	2½	4½	11¾	3	1.14	37500-42000	
11¼×5	5	11¼×3¾	4	2¾	5	12¼	4	1.14	42000-50000	
11¾×5¼	5¼	11¾×4	4¼	3	5¼	13¼	4	1.14	50000-58400	
12¼×5¾	5¾	12¼×4¼	4½	3¼	5¾	13¾	4	2	58400-66600	
13×6	6	13×4½	4¾	3½	6	14	4	2.2	66600-75000	
13½×6¼	6¼	13½×4¾	5	3¾	6¼	14¼	4	2.4	75000-83000	
14×6½	6½	14×5	5¼	4	6½	14½	4	2.6	83000-99900	
14¼×7	7	14¼×5¼	5½	4¼	7	14¾	4	2.8	99900-116000	
14½×7¼	7¼	14½×5¾	5¾	4½	7¼	15¼	4	2.10	116000-133000	
14¾×7½	7½	14¾×6	6	4¾	7½	15¾	4	2.12	133000-150000	
15×8	8	15×6¼	6¼	5	8	16	4	3	150000-167000	



147  
279

第 六 號 表  
固 著 釘 之 徑

第 二 數	力 材 及 根 固 材 之 敲 釘	外 板 釘 之 徑						第 二 數
		時 12/16	時 10/16	時 9/16	時 8/16	時 7/16	時 7/8	
上以 滿米 3300—5000		時 12/16	時 10/16	時 9/16	時 8/16	時 7/16	時 7/8	上以 滿米 3300—5000
5000—8400		13/16	11/16	10/16	9/16	8/16	7/8	5000—8400
8400—12500		14/16	12/16	11/16	10/16	9/16	1	8400—12500
12500—16700		14/16	12/16	11/16	10/16	9/16	1	12500—16700
16700—20800		15/16	13/16	12/16	11/16	10/16	1	16700—20800
20800—25000		15/16	13/16	12/16	11/16	10/16	1	20800—25000
25000—29100		1	14/16	12/16	11/16	10/16	1	25000—29100
29100—33300		1	14/16	12/16	11/16	10/16	1	29100—33300
33300—37500		1	14/16	12/16	11/16	10/16	1 1/8	33300—37500
37500—42000		1	14/16	12/16	11/16	10/16	1 1/8	37500—42000
42000—50000		1 1/16	15/16	13/16	12/16	11/16	1 1/8	42000—50000
50000—58400		1 2/16	1	14/16	13/16	12/16	1 1/8	50000—58400
58400—66600		1 2/16	1	14/16	13/16	12/16	1 1/4	58400—66600
66600—75000		1 3/16	1 1/16	15/16	13/16	13/16	1 1/4	66600—75000
75000—83000		1 4/16	1 2/16	15/16	14/16	13/16	1 1/4	75000—83000
83000—99900		1 4/16	1 2/16	1	14/16	14/16	1 3/8	83000—99900
99900—116000		1 4/16	1 2/16	1	14/16	14/16	1 3/8	99900—116000
116000—133000		1 5/16	1 3/16	1 2/16	15/16	14/16	1 3/8	116000—133000
133000—150000		1 5/16	1 3/16	1 2/16	15/16	14/16	1 3/8	133000—150000
150000—167000		1 6/16	1 4/16	1 2/16	1	15/16	1 3/8	150000—167000

大正十四年八月十五日印  
大正十四年八月二十日發行

農 商 務 省 水 產 局

印刷者 三田尾松太郎  
印刷所 朝陽印刷株式會社  
麴町區有樂町二丁目三番地  
麴町區有樂町二丁目三番地





14.7  
279

